

## 山口県介護員養成研修事業者指定基準

山口県介護員養成研修事業者指定要綱（以下「要綱」という。）第3条に基づき、介護員養成研修事業者の指定基準を次のとおり定める。

### 1 事業者

介護員養成研修事業者は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- ① 研修事業を適正かつ円滑に実施するために、必要な事務能力及び事業の安定的運営に必要な財政基盤を有すること。
- ② 研修事業の財務処理が、他の事業と明確に区分され、会計帳簿、決算書類等研修事業の収支の状況を明らかにする書類を整備すること。
- ③ 研修を法令及び県の定めるところにより適切に実施し、県から必要な指示、指導を受けた場合は、速やかに従うこと。
- ④ 受講者の研修に係る書類等研修事業に係る書類を整備し、その管理が確実に行われること。
- ⑤ 本県又は他の都道府県において、過去に研修事業の不指定又は指定の取消し等の処分を受けていたり、研修事業の実施にあたり継続的な指示、指導を受けているなどの事実によって、適正な研修事業の実施能力に疑義を生じさせることがないこと。

### 2 研修のカリキュラム

研修課程のカリキュラムは、別表1に定める基準以上のものとする。

また、カリキュラムの進行管理を日々の確に行い、県が確認をする必要があると判断した場合は、研修日誌を提出する等、実施状況を明らかにすること。

### 3 使用テキスト

介護職員基礎研修においては別表2において科目ごとに定める「修了時の評価ポイント」を講義・演習する上で適当なものとする。

訪問介護員養成研修においては「訪問介護員養成研修テキスト作成指針」（平成11年11月厚生省老人保健福祉局）に沿ったものであること。（使用テキストにより、作成指針等との対応表の提出を求める。）

### 4 講師

講師の審査は「講師選定基準（別表3）」に準じて行う。

なお、有資格者についてはその資格を生かし、原則として3年以上の実務経験を有する者とする。

### 5 科目の免除

一定の資格又は経験を有する者が研修を受講する場合は、履修科目の一部又は全部を免除できるものとする。

- ・ 資格要件により科目の免除を行う場合には、介護員養成研修事業者は修了証明書等により確認し、その写しを実績報告書とともに提出すること。
- ・ 経験要件により科目の免除を行う場合の実務経験の換算方式は、次のとおりとする。
  - ① 介護等の業務の具体的範囲は、別紙1「介護等の業務の範囲」のとおりとする。
  - ② 介護等の業務に従事した期間が通算365日以上であり、かつ、現に就労した日数を通算して計算するものとし、当該通算日数が180日以上である場合に、1年以上の実務経験がある者に該当するものとする。
  - ② 一日の勤務時間が短い場合であっても、一日勤務したものとみなす。
  - ③ 施設職員等においては、実務経験と訪問介護員養成研修課程修了の前後関係は問わない。

介護員養成研修事業者は、当該実務経験をサービス事業所長の証明等による実務経験証明書（参考書式を参照－必要事項を記入のこと）により確認し、その写しを実績報告書とともに提出すること。

(1) 介護職員基礎研修

一定の資格又は経験を有する者が研修を受講する場合に、免除することができる科目の取扱いは、別表4「科目免除の取扱い」による。

(2) 訪問介護員養成研修

- (ア) 科目の免除については、次の各号に掲げる受講予定者の区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。ただし、公的団体等が実施する在宅介護サービスに係る研修を受講した者であって、当該研修において履修した科目の一部又は全部が、訪問介護員養成研修において履修すべき科目と重複するものを履修したと知事が認めた者については当該重複する科目のうち知事が認めたものとする。

① 看護師及び准看護師

1級課程のすべての科目（ただし、看講師等の業務に従事していた時期から相当の期間を経ている者又は在宅福祉サービス若しくはこれに類似するサービスの従事経験のない者については、職場研修等が適切に実施されることが望ましいこと。）

② 介護アテンドサービス士

別表5に定める科目

③ 3級課程修了者又は介護保険法施行令（平成10年政令第412号）附則第4条の規定により3級課程修了者とみなされる者

別表6に定める科目

④ 1年以上介護等の業務に従事した経験を有する者

別表7に定める科目

(イ) 全科目が免除される者の取扱い

看護師等であってすべての科目の免除を受けることにより、訪問介護員養成研修の全科目を受講しなかった者は、知事に訪問介護員養成研修修了証明申請書（別紙様式1）を提出し、知事の作成する修了証明書の交付を受けるものとする。

(ウ) 免除の報告

訪問介護員養成研修事業者が、前記に基づき研修科目の一部の免除を行った場合は、その実施状況について、要綱第5条による実績報告書の提出と併せて、訪問介護員養成研修科目の免除状況調（別紙様式2）により県に報告するものとする。

6 修了評価について

介護職員基礎研修においては、修得することが求められている知識及び技術の習得がなされていることについて確認するため、修了評価を行うこと。

(1) 基礎理解とその展開

「基礎理解とその展開」の各科目の修了時には、別紙2-1「基礎理解とその展開の各科目の到達目標、評価」において各科目毎に定める「修了時の評価のポイント」について、各受講者の知識・技術等の修得度を評価すること。修了評価は、筆記試験、口頭試験、実技試験、レポート等、事業者が適切と判断する方法を定め、これにより行うものとする。修了時の評価ポイントに示す知識・技術等の修得が十分でない場合には、必要に応じて補講等を行い、基準に到達するまで再評価を行うこと。

(2) 実習

実習の修了評価は、別紙2-2「実習の目標、評価」において各科目毎に定める「経験目標」について、実習記録に基づき、経験目標を経験したかどうかを確認することにより行うこと。なお、実習記録は受講者が記録し、実習施設の確認を受けることものとする。

7 通信による研修事業の方法

(1) 介護職員基礎研修

通信による教育は別表8「通信学習の場合の通信時間数」に定める時間を上限とする。

(2) 訪問介護員養成研修

各実施課程について、以下の面接授業（＝スクーリング）を行うこと。各科目の時間数は、講義の場合で規定する各科目時間に準じて、適切に配分するものとする。

研修課程	面接授業時間
1 級課程	1 6 時間以上
2 級課程	1 2 時間以上
3 級課程	8 時間以上

## 8 指定申請

介護員養成研修指定申請書（要綱別記第1号様式）に以下の書類を添付して提出すること。

- ① 研修カリキュラム、研修実施期間、受講者の資格、募集方法、受講料、研修修了の確認方法等を記載した学則又は事業計画書
- ② 講師の氏名、履歴及び担当科目並びに専任又は兼任の別を記載した資料
- ③ 実習施設として利用しようとする施設における実習を承諾する旨の当該施設の設置者の承諾書の写し
- ④ 収支予算及び向こう2年間の財政計画
- ⑤ 申請者が法人であるときは、定款その他の基本約款の写し
- ⑥ 講義を通信の方法により行う場合は添削指導の内容・方法が分かるもの及び面接指導を実施する施設の設置者の承諾書の写し
- ⑦ 講義及び演習を実施する施設の見取り図
- ⑧ 研修修了の認定方法及び修了証明書の様式

### (1) 研修カリキュラム、学則又は事業計画

記載例は別添参考書式を参照のこと。なお、複数回数（又は複数会場）で実施する場合の研修カリキュラム、講師及び実習施設については、各々の研修ごとに作成すること。

### (7) 講義

#### ・通学形式（直接講義）の場合

各々の科目毎に「実施年月日」、「履修時間割」、「実施場所」、「担当する講師」を記載すること。

特に「履修時間」については休憩時間等を加味したうえで、

「〇〇：〇〇～〇〇：〇〇（△時間）」のように、時刻で示すこと。

#### ・通信形式の場合

- ① 講義を通信形式（通信を手段として通学形式と同等の学習効果が期待できるもので、例として自宅学習が可能な添削課題など）で行う場合は、その実施方法を明確に示すこととし以下の内容を記載すること。
- ② 通信で実施、使用する課題について、履修科目との整合性を示し各々の科目毎に「担当する講師」を記載すること。
- ③ 通信で実施、使用する課題を添付すること。

④ 使用する課題と、使用テキストの対比表作成のこと。

(イ) 演習（実技講習）

各々の科目毎に「実施年月日」、「履修時間割」、「実施場所」、「担当する講師」を記載すること。

特に「履修時間」については休憩時間等を加味したうえで、「〇〇：〇〇～〇〇：〇〇（△時間）」のように、時刻で示すこと。

また、演習で使用する介護用品の一覧を作成すること。

(ウ) 実習

(い) 実習方法

各々の科目毎に区分し、実施方法を明示すること。

実施方法の内容は、主に次の事項を説明したものであり、「実習施設等一覧表」に示す内容との整合性に留意すること。

① 開始時期から終了時期（例：〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）

② 施設等の受講者受け入れ人数

なお、受講者の受け入れ人数の基準については別表9「受け入れ人数の基準」のとおりとする。

(ろ) 実習施設等一覧表

研修を実施する地区毎に区分した上で、教科名毎に「施設種別」、「施設の名称」、「施設所在地」を記載すること。

なお、記載例は別添参考書式を参照のこと。

(は) 実習方法の弾力的運用

・2級課程の場合

各々の科目毎に規定する時間の半数を超えない範囲内で、以下に代えることができる。

区 分	教 科 名	弾力的運用
①	介護実習	模擬演習
②	訪問介護同行訪問	模擬演習
③	在宅サービス提供現場見学	ビデオ学習

実習方法の弾力的運用を実施する場合には、申請（計画）時又は変更届により事前に申請（届出）すること。また、①、②については、「模擬演習実施プログラム」と「模擬演習で使用する介護用品の一覧」（別添書式参照－必要事項記入のこと）を作成のうえ、提出すること。なお、③については、使用するビデオを事前に貸与のこと。（内容を確認のうえ、返却する。）

・ 3 級課程の場合

在宅サービス提供現場見学に規定する時間の半数を超えない範囲内で、ビデオ学習に代えることができる。実習方法の弾力的運用を実施する場合には、申請（計画）時又は変更届により事前に申請（届出）すること。

なお、使用するビデオを事前に貸与のこと。（内容を確認のうえ、返却する。）

(2) 講師の氏名等を記載した資料

講師氏名、担当科目、学歴・職歴、実務経験、資格等、内部講師（専任、兼任の別）か外部講師の別を記載する。なお、記載例は別添書式参照のこと。

※必要に応じ、講師就任承諾書、所属長の承認書の提出を求める。

(3) 実習施設からの承諾書の写し（別添書式参照－必要事項記入のこと）

実習施設等の受け入れ承諾書については、記載事項として

①施設種別及び施設名

②所在地

③設置者の氏名及び捺印（施設を代表する印鑑を捺印のこと。）

④実習の区分（科目名）、利用計画

（受け入れ年月日と1日当たりの受講者受け入れ人数の明細）  
が明示されたものであること。

(4) 収支予算及び向こう2年間の財政計画

事業開始予定分と次年度分の見込みを提出すること。収入（受講料）、支出とを大別し、支出については積算内訳を詳しく記載すること。

(5) 定款その他基本約款の写し

団体が保管する定款又は寄付行為を提出すること。「事業目的」の条項に介護員養成研修を実施する旨、またはそれに相当する研修を実施する旨が記載されていること。

(6) 面接指導を実施する施設の承諾書の写し

会場借上げの場合は、「借上年月日」、「借上料金」、その他必要事項が記載された借上契約書（確約書）を提出すること。

直接講義の場合でも、会場借り上げとなる場合は、承諾書の写しを提出のこと。

(7) 講義及び演習を実施する施設の見取り図

(7) 講義

①通学形式（直接講義）の場合

講義会場（実施する部屋）の見取り図を提出すること。

※机、椅子を配置したときのレイアウト、部屋面積、入室可能人数を記載すること

## ②通信形式の場合

スクーリング会場（実施する部屋）の見取り図を提出すること。（別添書式参照－必要事項記入のこと）

※机、椅子を配置したときのレイアウト、部屋面積、入室可能人数を記載すること。

### (イ) 演習（実技講習）

演習会場（実施する部屋）の見取り図を提出すること（別添参考書式を参照－必要事項を記入のこと）。なお、実技会場については、介護器具等を配置（搬入）した場合（ギャッジベッド、排泄用具、車椅子、浴槽、食事介助の器具など）のレイアウト、部屋面積、入室可能人数を記載すること。

### (ウ) 実習

2級課程において、実習方法の弾力的運用により、模擬実習を行う場合は、模擬実習会場（実施する部屋）の見取り図を提出すること。なお、模擬実習会場については、下記の科目で想定している設備を有したレイアウト、部屋面積、入室可能人数を記載すること。

教 科 名	想定される模擬実習会場
介護実習	特別養護老人ホーム等を想定した部屋
訪問介護同行訪問	一般住宅を想定した部屋

## 9 事業計画書

指定介護員養成研修事業者は、毎年度、受講者募集開始前に、介護員養成研修事業計画書（要綱の別記第2号様式）に下記書類を添えて県へ提出するものとする。

- ① 研修カリキュラム、研修実施期間、受講者の資格、募集方法、受講料、研修修了の確認方法等を記載した学則又は事業計画書
- ② 講師の氏名、履歴及び担当科目並びに専任又は兼任の別を記載した資料
- ③ 実習施設として利用しようとする施設における実習を承諾する旨の当該施設の設置者の承諾書の写し
- ④ 研修にかかる収支予算
- ⑤ 講義を通信の方法により行う場合は添削指導の内容・方法が分かるもの及び面接指導を実施する施設の設置者の承諾書の写し
- ⑥ 講義及び演習を実施する施設の見取り図
- ⑦ 研修修了の認定方法及び修了証明書の様式

※記載内容については指定時と同様

## 10 変更届

指定後、変更が生じた場合は、介護員養成研修変更届（要綱の別記第5号様式）を提出すること。（必要に応じ、書類を添付すること。）

変更届記載欄に記入できない場合は、資料を添付して提出のこと。（別添参考書式を

参照－必要事項を記入のこと)

なお、研修期間内における実施日の変更は変更事項とは考えない。

## 11 実績報告書

介護員養成研修実績報告書（要綱の別記第3号様式）に以下の書類を添付して提出すること。

- ① 介護員養成研修終了者名簿（要綱の別記第4号様式）
- ② 研修に係る科目、日時、場所及び担当講師等を記載した開講から閉講までの科目別実施状況一覧
- ③ 研修修了者に交付した修了証明書の写し（1部）
- ④ 研修にかかる収支決算見込み書

### (1) 修了者名簿

修了者全てについて記載すること。

### (2) 研修実施状況一覧表

#### (ア) カリキュラム

申請（計画）提出時のカリキュラムを実際に実施したものに置き換えて提出すること。

#### (イ) 講師一覧

申請（計画）提出時の講師一覧を実際に行った講師に置き換えて提出すること。

#### (ウ) 施設実習証明書（別添参考書式を参照－必要事項を記入のこと）

実習先の証明書を添付すること。

なお、実習を訪問介護員養成研修事業者と同一法人内で行う場合については、施設長の証明を添付すること。

#### (エ) 研修修了者に交付した修了証明書の写し

実際に交付した修了証明書及び携帯用修了証明書の写し（受講者1名分）を提出すること。

## 12 廃止、休止、再開の届け

要綱の規定により提出すること。



## 介護等の業務の範囲

- 1 児童福祉法（昭和22年法律第164号）に規定する知的障害児施設、知的障害児通園施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設及び重症心身障害児施設の入所者の保護に直接従事する職員（児童指導員、職業指導員、心理指導担当職員、作業療法士、理学療法士、聴能訓練担当職員及び言語機能訓練担当職員並びに医師、看護師その他医療法に規定する病院として必要な職員を除く。）
- 2 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）に規定する身体障害者更生施設（重度の肢体不自由者を入所させて、その更生に必要な治療及び訓練を行うものに限る。）、身体障害者療護施設及び身体障害者授産施設（重度の身体障害者で雇用されることの困難なもの等を入所させて、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自活させるものに限る。）の介護職員
- 3 生活保護法（昭和25年法律第144号）に規定する救護施設及び更生施設の介護職員
- 4 老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する老人デイサービスセンター、老人短期入所施設及び特別養護老人ホームの介護職員
- 5 障害者自立支援法（平成17年法律第123号）に規定する障害福祉サービス事業（同法附則第8条第2項の規定により障害福祉サービス事業とみなされた事業を含む。以下「障害福祉サービス事業」という。）のうち居宅介護、行動援護又は外出介護を行う事業所の従業者のうち、その主たる業務が介護等である者
- 6 障害福祉サービス事業のうち障害者デイサービスの介護職員
- 7 指定訪問介護（介護保険法（平成9年法律第123号）第41条第1項に規定する指定居宅サービス（以下「指定居宅サービス」という。）に該当する同法第8条第2項に規定する訪問介護をいう。）又は指定介護予防訪問介護（介護保険法第53条第1項に規定する指定介護予防サービス（以下「指定介護予防サービス」という。）に該当する同法第8条の2第2項に規定する介護予防訪問介護をいう。）の訪問介護員
- 8 指定通所介護（指定居宅サービスに該当する介護保険法第8条第7項に規定する通所介護をいう。）若しくは指定介護予防通所介護（指定介護予防サービスに該当する同法第8条の2第7項に規定する介護予防通所介護をいう。）又は指定短期入所生活介護（指定居宅サービスに該当する同法第8条第9項に規定する短期入所生活介護をいう。）若しくは指定介護予防短期入所生活介護（指定介護予防サービスに該当する同法第8条の2第9項に規定する介護予防短期入所生活介護をいう。）を行う施設（老人デイサービ

スセンター及び老人短期入所施設を除く。)の介護職員

- 9 指定訪問入浴介護（指定居宅サービスに該当する介護保険法第8条第3項に規定する訪問入浴介護をいう。）又は指定介護予防訪問入浴介護（指定介護予防サービスに該当する同法第8条の2第3項に規定する介護予防訪問入浴介護をいう。）の介護職員
- 10 指定夜間対応型訪問介護（介護保険法第42条の2に規定する指定地域密着型サービス（以下「指定地域密着型サービス」という。）に該当する同法第8条第15項に規定する夜間対応型訪問介護をいう。）の訪問介護員
- 11 指定認知症対応型通所介護（指定地域密着型サービスに該当する同法第8条第16項に規定する認知症対応型通所介護をいう。）又は指定介護予防認知症対応型通所介護（同法第54条の2第1項に規定する指定地域密着型介護予防サービスをいう。以下「指定地域密着型介護予防サービス」という。）に該当する同法第8条の2第15項に規定する介護予防認知症対応型通所介護をいう。）を行う施設（老人デイサービスセンターを除く。）の介護職員
- 12 指定小規模多機能型居宅介護（指定地域密着型サービスに該当する同法第8条第17項に規定する小規模多機能型居宅介護をいう。）又は指定介護予防小規模多機能型居宅介護（指定地域密着型介護予防サービスに該当する同法第8条の2第17項に規定する介護予防小規模多機能型居宅介護をいう。）の介護従業者
- 13 指定認知症対応型共同生活介護（指定地域密着型サービスに該当する介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型共同生活介護をいう。）又は指定介護予防認知症対応型共同生活介護（指定地域密着型介護予防サービスに該当する同法第8条の2第18項に規定する介護予防認知症対応型共同生活介護をいう。）の介護従業者
- 14 指定通所リハビリテーション（指定居宅サービスに該当する介護保険法第8条第8項に規定する通所リハビリテーションをいう。）若しくは指定介護予防通所リハビリテーション（指定介護予防サービスに該当する同法第8条の2第8項に規定する介護予防通所リハビリテーションをいう。）又は指定短期入所療養介護（指定居宅サービスに該当する同法第8条第10項に規定する短期入所療養介護をいう。）若しくは指定介護予防短期入所療養介護（指定介護予防サービスに該当する同法第8条の2第10項に規定する介護予防短期入所療養介護をいう。）を行う施設の介護職員
- 15 老人福祉法に規定する養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホーム並びに介護保険法に規定する介護老人保健施設その他の施設であって、入所者のうちに身体上又は精神上的の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者を含むものの職員のうち、その主たる業務が介護等の業務である者

- 16 介護保険法第48条第1項に規定する指定介護療養型医療施設であって、同法第8条第26項に規定する療養病床等により構成される病棟又は診療所（以下「病棟等」という。）における介護職員等その主たる業務が介護等の業務である者
- 17 老人保健法の規定による医療に要する費用の額の算定に関する基準（平成6年3月厚生省告示第72号）別表第1（老人医科診療報酬点数表）において定められた病棟等のうち、介護力を強化したもの（同告示に基づき、都道府県知事に対し、「老人病棟老人入院基本料（1～4）」、「老人性認知症疾患療養病棟入院料」又は「診療所老人医療管理料」の届出を行った病棟等をいう。）において看護の補助の業務に従事する者であって、その主たる業務が介護等の業務であるもの
- 18 医療法（昭和23年法律第205号）第7条第2項第四号に規定する療養病床により構成される病棟等（（16）及び（17）に定める病棟等を除く。）において看護の補助の業務に従事する者のうち、その主たる業務が介護等の業務であるもの
- 19 ハンセン病療養所における介護員等その主たる業務が介護等の業務である者
- 20 「進行性筋萎縮症者療養等給付事業について」（昭和44年7月14日付け社更第127号）別紙（進行性筋萎縮症者療養等給付事業実施要綱）に基づく「進行性筋萎縮症者療養等給付事業」を行っている施設（入所について委託を受けている病棟に限る。）において看護の補助の業務に従事する者のうち、その主たる業務が介護等の業務であるもの
- 21 介護等の便宜を供与する事業を行う者に使用される者のうち、その主たる業務が介護等の業務である者
- 22 個人の家庭において就業する職業安定法施行規則（昭和22年労働省令第12号）附則第3項に規定する家政婦のうち、その主たる業務が介護等の業務である者
- 23 財団法人労災ケアセンターが委託を受けて運営する労働者災害補償保険法（昭和22年法律第50号）第29条第1項第二号に基づき設置された労災特別介護施設の介護職員
- 24 「重症心身障害児（者）通園事業の実施について」（平成15年11月10日付け障発第1101001号）別紙（重症心身障害児（者）通園事業実施要綱）に基づく「重症心身障害児（者）通園事業」を行っている施設の入所者の保護に直接従事する職員（施設長、医師、看護師、児童指導員及び理学療法、作業療法、言語療法等担当職員を除く。）
- 25 「在宅重度障害者通所援護事業について」（昭和62年8月6日付け社更第185号）別添（在宅重度障害者通所援護事業実施要綱）に基づく「在宅重度障害者通所援護事業」を行っている施設の職員のうち、その主たる業務が介護等の業務である者

- 26 「知的障害者通所援護事業助成費の国庫補助について」（昭和54年4月11日付け児第67号）別添（知的障害者通所援護事業実施要綱）に基づく「知的障害者通所援護事業」を行っている施設の職員のうち、その主たる業務が介護等の業務である者
- 27 「身体障害者自立支援事業の実施について」（平成3年10月7日付け社更第220号）別添（身体障害者自立支援事業実施要綱）に基づく「身体障害者自立支援事業」を行っている施設において介助サービス等を提供する者のうち、その主たる業務が介護等の業務である者
- 28 「地域福祉センターの設置運営について」（平成6年6月23日社援地第74号）別紙（地域福祉センター設置運営要綱）に基づく地域福祉センターの職員のうち、その主たる業務が介護等の業務である者
- 29 「原子爆弾被爆者養護ホーム入所委託要綱及び原子爆弾被爆者養護ホームの運営に関する基準について」（昭和63年12月13日付け健医発第1414号）に基づく原子爆弾被爆者養護ホームの寮母
- 30 「原子爆弾被爆者養護ホームにおける原子爆弾被爆者デイサービス事業の実施について」（平成5年7月15日付け健医発第765号）に基づく「原子爆弾被爆者デイサービス事業」又は「原子爆弾被爆者養護ホームにおける原子爆弾被爆者ショートステイ事業の実施について」（平成5年7月15日付け健医発第766号）に基づく「原子爆弾被爆者ショートステイ事業」を行っている施設の寮母
- 31 「原爆被爆者家庭奉仕員派遣事業について」（昭和50年9月19日付け衛発第547号）別添（原爆被爆者家庭奉仕員派遣事業運営要綱）に基づく「原爆被爆者家庭奉仕員派遣事業」の原爆被爆者家庭奉仕員

別表 1

## 研修科目と研修時間数

### 介護職員基礎研修

基礎理解とその展開	(1) 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	30時間
	(2) 老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解	30時間
	(3) 老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解	30時間
	(4) 認知症の理解	30時間
	(5) 介護におけるコミュニケーションと介護技術	90時間
	(6) 生活支援と家事援助技術	30時間
	(7) 医療及び看護を提供する者との連携	30時間
	(8) 介護における社会福祉援助技術	30時間
	(9) 生活支援のためのアセスメントと計画	30時間
	(10) 介護職員の倫理と職務	30時間
		360時間
実習	(1) 事前演習	8時間
	(2) 実習	124時間
	① 施設・居住型実習	80時間
	② 通所・小規模多機能型実習	40時間
	③ 訪問介護実習	
	④ 地域の社会資源実習	4時間
	(3) 事後演習	8時間
		140時間
合計		500時間

#### (留意点)

- 「基礎理解とその展開」は、講義と演習を一体的に実施すること。演習は、小グループでの討論、事例などに基づく討議、ロールプレイ、調べ学習、実技演習、ふりかえりなど、創意工夫して行うこと。研修のカリキュラムに講義と演習の実施方法欄を設け、講義と演習の一体的実施方法を記載すること（※なお、科目全体において講義と演習が一体的に実施されていればそれで足り、科目の細目ごとに一体的実施が担保されている必要はない）。
- 「施設・居住型実習」については、通算10日間を目安に実施すること。
- 「通所・小規模多機能型実習」、「訪問介護実習」については、それぞれ2日間以上かつ16時間以上実施し、通算で5日間を目安に実施すること。
- 各科目名についての読み替えは差し支えない。また、各科目の細目の設定は任意であるが、定める場合（例：生活支援と家事援助技術の細目を、「生活の理解」、「食生活の支援」、「被服生活の支援」等に定める場合）は、その名称は、介護職員基礎研修向けテキスト等を参考にして、任意に設定できる。
- 研修時間数は、各科目に定める時間数以上とする。各科目の細目に時間数の指定はしないが、予め時間数を定めること。

# 1 級課程カリキュラム

(1 級課程)

教 科 名	目 的	内 容
I 講義 84 時間		
1 老人保健福祉に係る制度及びサービスに関する講義 (10 時間)		
(1) 老人福祉の制度とサービス (4 時間) (2) 老人保健・医療の制度とサービス (3 時間)	必要なものについて、詳細に老人福祉・保健・医療に関する制度やサービスの理解を深める ((1)、(2) をあわせて、総合的に取扱い、介護保険制度を中心とした講義内容とする)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度における老人福祉・保健・医療サービスの詳細な把握</li> <li>・ その他の老人福祉の制度とサービスの詳細な把握</li> <li>・ その他の老人保健・医療の制度とサービスの詳細な把握</li> <li>・ 老人福祉・保健・医療に関する事例またはテーマを設定してのグループ討論</li> </ul>
(3) 老人保健福祉の動向 (3 時間)	最新の老人保健福祉の動向を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人保健福祉施策等の最新の動向</li> <li>・ サービスの提供と人権 (成年後見制度と権利擁護制度)</li> </ul>
2 障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義 (7 時間)		
(4) 障害者 (児) 福祉の制度とサービス (4 時間)	必要なものについて、詳細に障害者 (児) 福祉の制度やサービスの理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者 (児) 福祉の制度とサービスの詳細な把握</li> <li>・ 障害者 (児) 福祉に関する事例またはテーマを設定してのグループ討論</li> </ul>
(5) 障害者 (児) 福祉の動向 (3 時間)	最新の障害者 (児) 福祉の動向を把握する	障害者 (児) 福祉施策等の最新の動向
3 社会保障制度に関する講義 (3 時間)		
(6) 社会保障制度 (3 時間)	訪問介護の業務遂行に必要な社会保障制度等について理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年金制度</li> <li>・ 生活保護制度</li> <li>・ 最新の住宅施策 等</li> </ul>
4 介護技術に関する講義 (28 時間)		
(7) 介護技術の展開 (4 時間)	特に留意が必要な介護技術について理解を深め、その展開を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事のケア 食事摂取困難への対応、食欲不振、嚥下困難への対応、脱水予防、家族への指導 等</li> <li>・ 口腔のケア 口腔の構造、口腔ケアの基本、症状別口腔ケア 等</li> <li>・ 排泄のケア 排泄ケアの原則、排泄の仕組み、排泄の環境整備と福祉用具、排泄の介助、排泄障害時のケア 等</li> <li>・ 褥瘡のケア 褥瘡の予防方法、褥瘡を持つ利用者への対応方法、家族への指導 等</li> </ul>

## (1 級課程)

教科名	目 的	内 容
(8) 認知症高齢者の介護の実際 (4 時間)	認知症高齢者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症高齢者の生活像</li> <li>・ 問題行動、精神症状の理解と対応</li> <li>・ 困難事例を含む取り組み事例（成功事例・失敗事例）研究</li> </ul>
(9) 障害を持つ児童の介護の実際 (4 時間)	障害を持つ児童の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める	各利用者の生活像の把握と困難事例を含む取り組み事例（成功事例・失敗事例）を通した対応方法の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自閉症（強度行動障害を中心に）</li> <li>・ 重度重複障害</li> <li>・ 進行性筋ジストロフィー症</li> <li>・ 知的障害（知的障害者を含む）</li> </ul>
(10) 身体障害者の介護の実際 (4 時間)	身体障害者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める	各利用者の生活像の把握と困難事例を含む取り組み事例（成功事例・失敗事例）を通した対応方法の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中途肢体不自由</li> <li>・ 脳性麻痺</li> <li>・ 視覚障害</li> <li>・ 聴覚障害</li> <li>・ 内部障害</li> </ul> 等
(11) 精神に障害を持つ人々への介護の実際 (4 時間)	精神に問題を持つ利用者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める	各利用者の生活像の把握と困難事例を含む取り組み事例（成功事例・失敗事例）を通した対応方法の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神分裂症</li> <li>・ アルコール依存症</li> <li>・ 鬱状態</li> </ul> 等
(12) 困難事例検討 (4 時間)	利用者本人の心身の障害・疾病そのもの以外の困難を中心とする事例について検討し、適切な援助の視点と方法を学習するとともに臨機応変な援助能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助対象児（者）虐待世帯</li> <li>・ 多問題家族</li> <li>・ サービスの調整困難</li> <li>・ 過剰要求・サービス拒否事例</li> <li>・ 高齢者と性、ヘルパーへの過剰な身体接触</li> </ul> 等
(13) 在宅ターミナルケアの実際 (4 時間)	在宅ターミナルケアの意義について理解し、その実態を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅ターミナルケアの意義</li> <li>・ 在宅ターミナル医療の取り組み事例研究</li> <li>・ 在宅ターミナルケアにおけるチームケアと訪問介護員の役割、業務の実際</li> <li>・ ホスピスの取り組み事例研究</li> </ul>
5 主任訪問介護員が行う他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携等に関する講義（20 時間）		
(14) ケアマネジメントの方法 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネジメントの目的と機能および視点と留意点について理解し、その具体的な方法を学習する</li> <li>・ 訪問介護員としてのケアマネジメントへの関わり方を学習する（介護保険制度における居宅介護支援の方法を内容に含める）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネジメントの目的、機能と基本原則</li> <li>・ ケアマネジメントの方法 ケアアセスメント、ケアプランニング、サービスコーディネーション、継続的なケアマネジメント、人権の擁護 等</li> <li>・ 介護保険制度における居宅介護支援についての理解</li> <li>・ 事例検討と訪問介護員としての関わり方</li> </ul>

## (1 級課程)

教 科 名	目 的	内 容
(15) 訪問介護チーム運営方式の実際 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度における運営基準を理解する</li> <li>・チーム運営方式主任訪問介護員及び介護保険制度におけるサービス提供責任者の役割を理解し、その業務を把握する</li> <li>・チーム運営方式の取り組み事例を通して、効果的運営の方法や運営上の問題点の克服等を学習する (介護保険制度における訪問介護の運営基準、サービス提供責任者の業務について含める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度における運営基準及びサービス提供責任者の業務の理解</li> <li>・サービス提供責任者・主任訪問介護員の役割と業務の理解 メンバーの掌握、業務調整の方法等</li> <li>・チーム運営方式の取り組み事例研究</li> <li>・24時間対応巡回型介護の取り組み事例研究</li> </ul>
(16) チームケアの実際 (4 時間)	異なる職種、異なるサービスが協働するチームケアへの理解を深め、他職種・他サービスとの効果的連携・調整の方法や問題点の克服等を学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームケアの取り組み事例研究</li> <li>・周辺の社会資源（ボランティア等）の活用と連携の方法</li> </ul>
(17) 指導業務の必要性と方法 (4 時間)	主任訪問介護員等が行う指導業務の概要を把握し、その役割と必要性について理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパービジョンの役割と必要性の把握及び基本的な留意点 業務内容・遂行の確認、問題解決への助言、工夫への助言、技術指導、記録・報告指導、精神的支え等</li> <li>・スーパービジョンの具体的方法の事例研究</li> </ul>
(18) カンファレンスの持ち方と事例検討の方法 (4 時間)	業務報告会、事例検討会等の会議の意義と機能について理解を深め、その開催方法等を学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務報告会、事例検討会等の会議の意義と機能</li> <li>・会議の開催頻度、時間数、内容等</li> <li>・事例検討の手順と留意点</li> <li>・他職種との事例検討会の企画・実施</li> </ul>
6 医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義 (16 時間)		
(19) 医学の基礎知識Ⅱ (8 時間)	訪問介護員がその業務において直面するレベルを中心とした高齢者、障害者(児)の医学、精神保健、歯科医療・保健の基礎知識について理解を深める (介護保険法の対象となる特定疾病の概要を加える)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人病の理解 高血圧、糖尿病、腎疾患 等</li> <li>・精神保健 生活史からみた精神保健神経症、躁鬱病、不応症 等</li> <li>・高齢者、障害者(児)の歯科医療・保健</li> <li>・介護保険法における特定疾病の概要</li> </ul>
(20) 在宅看護の基礎知識Ⅱ (4 時間)	高齢者、障害者(児)の在宅看護の知識について理解を深める	在宅医療・看護方法の理解と訪問介護業務における留意点 留置カテーテル、ストーマ、経管栄養、気管カニューレ、在宅酸素療法 等
(21) 心理学的援助方法の基礎知識 (4 時間)	高齢者、障害者(児)に対する心理学的援助方法について学習し、その視点を理解する	心理学的リハビリテーションの効果のある援助方法の概要把握とその基本的視点の訪問介護への活用 音楽療法、動作法、ドラマ法、回想法、受容的交流療法等からの選択



教科名	目的	内容
II 演習 62 時間		
7 居宅介護支援に関する演習 (6 時間)		
(1) ケアマネジメント技術 (6 時間)	ケアマネジメントについての理解を深め、技術を学習する (内容について、介護保険制度における居宅介護支援への参加を想定した事例を取り入れることが望ましい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想定事例に対するケアマネジメントの各プロセスのシミュレーションとその妥当性等についての小グループによる討論</li> <li>・ 想定事例に対するケアマネジメントへの訪問介護員としての関わり方、他職種との連携のあり方についての小グループによる討論</li> </ul>
8 介護技術に関する演習 (30 時間)		
(2) 技術指導と介護技術の向上 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導技術について体験的に理解を深め、技術を学習する</li> <li>・ 他者に教えるという作業を通して、自身の基本介護技術を復習・確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想定事例に対するロールプレイ等の方法による助言・指導及び精神的支援</li> <li>・ 受講者交互による介護技術指導を通じたスーパービジョンの技術の修得と自身の基本介護技術の復習・確認</li> </ul> <p>         食事の介護          排泄、尿失禁の介護          衣服着脱の介護          入浴の介護          体位・姿勢交換の介護          (座位保持、褥瘡への対応を含む)          肢体不自由者の歩行の介護          車椅子への移乗等の介護          車椅子等での移動の介護          視覚障害者の歩行の介護          ベッドメイキングの方法          身体の清潔 (清拭、洗髪、口腔ケア等) の方法          緊急時対応法 (骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒等)          腰痛の予防等援助者の健康管理 等       </p>
9 処遇が困難な事例に関する演習 (20 時間)		
(3) 困難事例等対応技術 (20 時間)	障害への理解を深め、困難事例等への対応技術を学習する	設定された課題を遂行するあるいは解決する形式のロールプレイ等の方法での技術の修得 障害別の状況対応技術、本人に困難性がある事例の対応技術、家族に困難性がある事例の対応技術、高齢者と性等
10 福祉用具の操作法に関する演習 (6 時間)		
(4) 福祉用具の使用技術 (6 時間)	各種福祉用具の使用方法を体験的に理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護実習普及センター等における最新の福祉用具等の使用方法の修得</li> <li>・ 最新の福祉用具・方法と従来の福祉用具・方法との相違点の把握とその意義等の理解</li> </ul>

教科名	目的	内容
Ⅲ 実習 84 時間		
1 1 介護実習 (76 時間)		
(1) 認知症高齢者等処遇困難事例対応実習 3 日 (24 時間)	特別養護老人ホーム等の重介護に対応する入所型施設の実習を通して、対応に困難性を持つ高齢者、障害者(児)への援助能力を高める	特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、重症心身障害児施設、知的障害児施設重度棟、認知症高齢者グループホーム等における介護実習 ・認知症高齢者等の対応困難者の状態像の理解 ・認知症高齢者等とのコミュニケーション技術の向上 ・認知症高齢者等への介護技術の向上 ※2 級課程で高齢者介護実習をしたものは障害者(児)介護を原則とする。 2 級課程で障害者(児)介護実習をしたものは高齢者介護を原則とする
(2) デイサービスセンター実習 1.5 日 (12 時間)	・介護を行うデイサービスセンターにおける実習を通して、在宅生活の高齢者、障害者(児)への援助の視点を広げるとともに援助能力を高める ・訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する	・デイサービスセンターの役割と機能の理解 ・食事の介護、排泄の介護等の介護技術の向上 ・アクティビティプログラムへの参加による作業療法的あるいは集団療法的視点の形成と技術の修得 ・健康管理の視点と技術の把握
(3) チーム運営方式業務実習 2 日 (16 時間)	チーム運営方式業務実習を通して、チーム運営方式のあり方と主任訪問介護員の役割・業務を体験的に理解し、業務能力を高める	・チーム運営方式のあり方と主任訪問介護員の役割・業務の把握 ・会議、事例検討への参加 ・サービスの調整業務等への参加 等 ※24 時間巡回型介護業務実習がさらに望ましい ※すでにチーム運営方式に参加している者は、他機関のチームへの参加を原則とする
(4) 訪問看護同行訪問 4 時間×2 日	・訪問看護同行訪問を通して、訪問看護の業務内容及び役割と機能を体験的に理解する ・訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する	・訪問看護の役割・機能の体験的理解 ・訪問看護と訪問介護の連携のあり方の把握 ※訪問看護ステーション等での実習が困難な場合、市町保健師との同行活動に代えることができる
(5) 地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員との同行訪問 4 時間×2 日	・地域包括支援センター等職員との同行訪問を通して、地域包括支援センター等の業務内容及び役割と機能を体験的に理解する ・訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する	・地域包括支援センター等の役割、機能の体験的理解 ・地域包括支援センター等と訪問介護の連携のあり方の把握

教 科 名	目 的	内 容
(6)事例報告の検討 (8 時間)	実習の総括として、事例報告書の作成・検討を行い、客観的視点を形成するとともに自身の役割や業務に対する理解を深める	・実習報告書の作成 ・作成された実習報告書数点及び受講者の業務における担当事例報告書数点に対する小グループによる討論形式での検討
1 2 福祉事務所、保健所等の老人保健福祉に係る公的機関の見学 (8 時間)		
(7)公的関係機関見学 1 日 (8 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的関係機関の見学実習を通して、その役割・機能を理解する</li> <li>・訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する</li> </ul>	保健センター、福祉事務所、保健所等の公的関係機関の見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種関係機関の役割の理解</li> <li>・訪問介護との連携のあり方についての理解</li> </ul>

※本実習は、地域におけるチームケアの推進を目的とする「訪問介護員と関係職種の協力関係の形成」にも留意して実施すること。

## 2級課程カリキュラム

(2級課程)

教科名	目的	内容
Ⅰ 講義 58時間		
1 社会福祉の基本的な理念及び福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義(6時間)		
(1) 福祉理念とケアサービスの意義 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の基本的な理念について理解する</li> <li>・ケアサービスの意義について把握し、チームケアの必要性を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QOLの向上、ノーマリゼーション等の各福祉分野に共通する主流理念</li> <li>・ケアサービスの意義</li> <li>・チームケアの必要性</li> <li>継続的ケアと総合的ケア、地域福祉の視点、事例にみる連携と役割分担</li> </ul>
(2) サービス提供の基本視点 (3時間)	福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間観</li> <li>生活者としての援助対象の把握、生涯発達の視点、自己実現の視点等</li> <li>・他者理解と共感</li> <li>・自立支援</li> <li>経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性</li> <li>・利用者の自己決定</li> </ul>
2 老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義(6時間)		
(3) 老人福祉の制度とサービス (3時間)	介護保険制度を中心とした老人保健福祉の制度とサービスについて理解する (介護保険制度に関する内容を中心とした講義内容とする)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人保健福祉の背景と動向</li> <li>・介護保険制度の概要とサービスの理解</li> <li>・その他の老人保健福祉の制度とサービスの理解</li> <li>・医療・年金・生活保護制度・住宅施策等その他老人保健福祉に関連する制度、施策</li> </ul>
(4) 障害者(児)福祉制度とサービス (3時間)	障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者(児)福祉の背景と動向</li> <li>・身体障害者福祉の制度</li> <li>・知的障害者福祉の制度</li> <li>・児童福祉の制度</li> <li>・各福祉サービスの種類、内容とその役割</li> <li>・障害者(児)福祉に関する制度、施策</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
3 訪問介護に関する講義 (5時間)		
(5) 訪問介護概論 (3時間)	訪問介護の役割と業務を理解する (介護保険制度における運営基準等についての内容や考え方について含める)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護の社会的役割</li> <li>・ 訪問介護の制度と業務内容 介護保険制度における運営基準等の理解</li> <li>・ チーム運営方式の理解</li> <li>・ 24時間対応巡回型訪問介護の理解</li> <li>・ 在宅介護支援センター等関係機関との連携 介護保険制度における居宅介護支援との連携</li> <li>・ 近隣・ボランティア等との連携</li> <li>・ 関連職種の基礎知識</li> </ul>
(6) 訪問介護員の職業倫理 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護に従事する際の職業倫理について理解する</li> <li>・ サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する (実際のサービス提供における人権の尊重について重点的項目として取り上げる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護業務においてとるべき基本的態度</li> <li>・ 福祉業務従事者としての倫理</li> <li>・ サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等 (事例を用いて理解を深めることが、望ましい)</li> <li>・ 成年後見制度と権利擁護制度</li> </ul>
4 老人及び障害者の疾病、障害等に関する講義 (14時間)		
(7) 障害・疾病の理解 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的に理解する</li> <li>・ 実践的視点で利用者の状態像を把握する</li> <li>・ 援助の基本的な方向性を把握する (介護保険法の対象となる特定疾病の概要を加える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加齢による老化</li> <li>・ 認知症</li> <li>・ 脳卒中後遺症 (肢体不自由、失語症等)</li> <li>・ 精神障害 (精神分裂病を中心として)</li> <li>・ 脳性麻痺、脊髄損傷等による肢体不自由</li> <li>・ 知的障害、自閉症、ダウン症</li> <li>・ てんかん</li> <li>・ 視覚障害、聴覚障害</li> <li>・ 心機能障害等の内部障害</li> <li>・ 高血圧、糖尿病</li> <li>・ 介護保険法における特定疾病の概要等</li> </ul>
(8) 高齢者、障害者(児)の心理 (3時間)	高齢者、障害者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者(児)の生活・行動と心理</li> <li>・ 高齢者、障害者(児)の人間関係</li> <li>・ 高齢者、障害者(児)とのコミュニケーション</li> <li>・ 生き生きとした生活に向けての心理的援助の実際</li> </ul>
(9) 高齢者、障害者(児)等の家族の理解 (3時間)	高齢者、障害者(児)等の家族に対する理解を深め、援助の目的と機能を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族、世帯等の定義と内部構造</li> <li>・ 高齢者、障害者(児)の家族のストレス</li> <li>・ 家族に対するアセスメントの方法</li> <li>・ 家族とのコミュニケーションと援助</li> <li>・ 母子、父子家庭の理解</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
5 介護技術に関する講義 (11時間)		
(10)介護概論 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する</li> <li>・在宅介護の特徴とすすめ方を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目的、機能と基本原則</li> <li>・介護ニーズと基本的対応</li> <li>・在宅介護におけるリハビリテーションの視点</li> <li>・リハビリテーション介護とは</li> <li>・ターミナルケアの考え方</li> <li>・介護者の健康管理</li> </ul>
(11)介護事例検討 (4時間)	生活者としての援助対象者の介護事例を通して、適切な介護方法を学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者介護の特徴と留意点 一人暮らしの高齢者、寝たきりの高齢者、認知症高齢者、骨折等への注意、高齢者と性等</li> <li>・障害者介護の特徴と留意点 進行性障害への配慮、障害者夫婦への援助、精神障害への対応、視覚・聴覚障害者への対応等</li> <li>・障害児介護の特徴と留意点 思春期の特徴と対応、家族への対応、自傷・他害への対応等</li> </ul>
(12)住宅・福祉用具に関する知識 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、障害者(児)にとっての快適な住宅について理解を深め、住宅の改造に関する知識を学習する</li> <li>・福祉用具についての理解を深め、主な福祉用具の種類と機能を把握する (介護保険制度における福祉用具貸与・購入、住宅改修の概要について加える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活行動と生活空間</li> <li>・在宅介護における住宅の役割と機能</li> <li>・快適な室内環境</li> <li>・防災等の安全管理</li> <li>・住宅改造のポイントと事例</li> <li>・福祉用具の役割と利用に関する知識</li> <li>・主な福祉用具の種類と機能・使用法に関する知識</li> <li>・介護保険制度上の福祉用具貸与・購入費、住宅改修費の概要</li> </ul>
6 家事援助の方法に関する講義 (4時間)		
(13)家事援助の方法 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、障害者(児)への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する</li> <li>・高齢者、障害者(児)への家事援助に必要な栄養、調理、被服の知識を学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事援助の目的、機能と基本原則</li> <li>・家事援助の方法</li> <li>・家事援助における自立支援</li> <li>・高齢者、障害者(児)と栄養、食生活のあり方</li> <li>・食品の保存・管理</li> <li>・ゴミの始末、調理器具、食器等の衛生管理</li> <li>・高齢者、障害者(児)への調理技術 (味付け、きざみ食等)</li> <li>・糖尿病、高血圧等に対応する特別食</li> <li>・高齢者、障害者(児)と被服</li> </ul>
7 相談援助に関する講義 (4時間)		
(14)相談援助とケア計画の方法 (4時間)	ケアマネジメントの視点と方法を理解した上で、訪問介護員として行う相談援助の方法及びケア計画の作成方法を学習する (介護保険制度における居宅介護支援についての内容を含める)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの視点と方法</li> <li>・介護保険制度における居宅介護支援の理解</li> <li>・相談援助の目的、機能と基本原則</li> <li>・情報収集とニーズの発見</li> <li>・業務におけるケア計画の方法 目標の設定、計画の作成</li> <li>・援助内容の見直しの視点と手続き</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
8 医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義 ( 8 時間 )		
(15) 医学の基礎知識 I ( 3 時間 )	高齢者、障害者(児)の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学等の基礎知識を学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒 等 ※バイタルサインの発見方法を含む</li> <li>・ 感染症の理解と予防 MRSA、B型肝炎、疥癬、梅毒等</li> <li>・ 医療関係制度の基礎知識</li> </ul>
(16) 在宅看護の基礎知識 I ( 3 時間 )	高齢者、障害者(児)の在宅看護の基礎知識を学習する	在宅看護方法の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体を観察 観察の視点、体温測定、血圧測定等</li> <li>・ 薬の飲ませ方と保管</li> <li>・ 特別な処置 吸引、吸入、浣腸、排便 等</li> </ul>
(17) リハビリテーション医療の基礎知識 ( 2 時間 )	理学療法士と作業療法士を中心にリハビリテーションの基礎知識を学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション医療の意義と役割</li> <li>・ リハビリテーション医療の概要 理学療法、作業療法、言語療法等</li> <li>・ 訪問リハビリテーションのスタッフとの連携の進め方</li> <li>・ リハビリテーション介護とは</li> </ul>
II 実技講習 42時間 ロールプレイ等については見学のみで終了することがないことを原則とする。		
9 福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習 ( 4 時間 )		
(1) 共感的理解と基本的態度の形成 ( 4 時間 )	サービスの利用者の立場に立った理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する	ロールプレイ等の方法によりサービス提供場面の演習を通して、サービス利用者に対する共感的理解と基本的態度を形成する <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問・退出時の挨拶</li> <li>傾聴的態度、信頼関係の形成</li> <li>物の処分・移動における言葉かけ</li> <li>銀行入金代行業務や買い物業務時の注意点 (レシートの取得等)</li> <li>できないことの拒否の仕方</li> <li>助言の仕方</li> <li>認知症高齢者等とのコミュニケーション</li> <li>視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション</li> <li>※親密さと無礼の境目 (「キクちゃん」等の幼児語使用) 等にも留意して演習のこと</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
10 介護技術に関する演習 (30時間)		
(2) 基本介護技術 (30時間)	食事、排泄、入浴、移動・移乗、その他基本的な介護技術を修得する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の介護</li> <li>・ 排泄・尿失禁の介護</li> <li>・ 衣服着脱の介護</li> <li>・ 入浴の介護</li> <li>・ 体位・姿勢交換の介護 (座位保持、褥瘡への対応を含む)</li> <li>・ 肢体不自由者の歩行の介護</li> <li>・ 車椅子への移乗等の介護</li> <li>・ 車椅子等での移動の介護</li> <li>・ 視覚障害者の歩行の介護</li> <li>・ ベッドメイキングの方法</li> <li>・ 身体の清潔 (清拭、洗髪、口腔ケア等)の方法</li> <li>・ 緊急時対応法 (骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒等) 等</li> <li>※ 姿勢による食事の喉の通り方を体験するため弁当を用いて実際に食事介護する等、可能な限り実践的な講習とする</li> <li>・ 腰痛の予防等援助者の健康管理</li> </ul>
11 訪問介護計画の作成等に関する演習 (5時間)		
(3) ケア計画の作成と記録、報告の技術 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護員としてのケア計画の作成技術を学習する</li> <li>・ 業務及び事例の記録の方法と報告の仕方等を学習する</li> </ul>	<p>ロールプレイ、V T R 等により情報が提供された想定事例に対して以下の項目を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務のための情報収集とアセスメント</li> <li>・ サービス提供プランの想定</li> <li>・ 訪問介護員としての援助目標の設定とケア計画の作成</li> <li>・ 記録の書き方</li> <li>・ 上司への報告・相談の仕方 (カンファレンスでの報告の仕方を含む)</li> <li>・ 事例報告のまとめ方</li> <li>※ 記録の書き方については、いくつかの適切と思われる記録様式 (用紙) を紹介すること</li> <li>※ 事例報告のまとめ方については、いくつかの既存の事例報告を紹介し、討論形式で学習すること</li> </ul>
12 レクリエーションに関する演習 (3時間)		
(4) レクリエーション 体験学習 (3時間)	高齢者、障害者 (児) を対象とするレクリエーションについて体験的に理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レクリエーションの視点とプログラム</li> <li>・ 高齢者、障害者 (児) を対象とするレクリエーションの体験学習</li> </ul>

※関連する講義と実技講習は可能な限り 1 組で実施する等、連続性に留意する。



Ⅲ 実習 30時間 実習に先立ち、オリエンテーションを実施のこと		
13 介護実習 (24時間)		
(1) 介護実習 2日 (16時間)	講義、実技講習の各内容を老人保健・福祉施設において実践することにより介護技術を中心とする援助能力を高める	<p>特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児施設、認知症高齢者グループホーム、現に介護サービスを提供している有料老人ホーム等における介護実習</p> <p>※実習方法の弾力的運用 実習方法については、次のような要件を満たす場合に限り、実習時間の概ね半数を超えない範囲内で、模擬実習をもって実習に代えること出来る</p> <p>① 特別養護老人ホーム等における介護を想定し、これと同様の設備を有する部屋において実施すること</p> <p>② 相当の経験を有する介護・看護業務従事者を講師とし、その者により策定された想定事例に基づいて実施すること</p> <p>③ より実践的な内容となるよう介護・看護業務従事者を利用者役に充てて、これに対して実際にサービス提供を行うことにより実施すること (演習のように、受講者が相互に利用者役を演じる方法により実施することは適切ではないこと)</p>
(2) 訪問介護同行訪問 4時間×2日	訪問介護同行訪問により、業務を体験的に理解するとともに援助能力を高める	<p>訪問介護同行訪問による業務実習</p> <p>※実習方法の弾力的運用 実習方法については、次のような要件を満たす場合に限り、同行訪問時間の概ね半数を超えない範囲内で、模擬実習をもって同行訪問に代えることができる</p> <p>① 一般住宅における介護を想定し、これと同様の設備を有する部屋において実施すること</p> <p>② 相当の経験を有する介護・看護業務従事者を講師とし、その者により策定された想定事例に基づいて実施すること</p> <p>③ より実践的な内容となる要介護・看護業務従事者を利用者役に充てて、これに対して実際にサービス提供を行うことにより実施すること (演習のように、受講者が相互に利用者役を演じる方法により実施することは適切ではないこと)</p>
14 老人デイサービスセンター等のサービス提供現場の見学 (6時間)		
(3) 在宅サービス提供 現場見学 1日 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅サービスの提供現場の見学を通して、そのサービス及び機関の役割・機能を把握する</li> <li>訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方 について学習する</li> </ul>	<p>デイサービスセンター、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション等の在宅サービス提供現場の見学</p> <p>※実習方法の弾力的運用 在宅サービス提供現場見学については、見学時間の概ね半数を超えない範囲内で、ビデオ学習をもって現場見学到に代えることができる</p>

### 3級課程カリキュラム

(3級課程)

教科名	目的	内容
I 講義 25時間		
1 福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義 (3時間)		
(1) サービス提供の基本視点 (3時間)	福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QOL等、主要な福祉理念</li> <li>・ 豊かな人間観 生活者としての援助対象の把握、生涯発達の視点、自己実現の視点等</li> <li>・ 他者理解と共感</li> <li>・ 自立支援 経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性</li> <li>・ 利用者の自己決定</li> </ul>
2 老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義 (4時間)		
(2) 老人福祉の制度とサービス (2時間)	介護保険制度を中心とした老人保健福祉の制度とサービスについて理解する (介護保険制度に関する内容を中心とした講義内容とする)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人保健福祉の背景と動向</li> <li>・ 介護保険制度の概要とサービスの理解</li> <li>・ その他の老人保健福祉の制度とサービスの理解</li> <li>・ 医療・年金・生活保護制度・住宅施策等その他老人保健福祉に関連する制度、施策</li> </ul>
(3) 障害者(児)福祉の制度とサービス (2時間)	障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者(児)福祉の背景と動向</li> <li>・ 障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容とその役割</li> <li>・ 障害者(児)福祉に関連する制度、施策</li> </ul>
3 訪問介護に関する講義 (3時間)		
(4) 訪問介護概論 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護の役割と業務を理解する</li> <li>・ 訪問介護に従事する際の職業倫理について理解する</li> <li>・ サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する (介護保険制度における運営基準等についての内容や考え方について含める) (職業倫理、人権の尊重について重点的項目として取り上げる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護の社会的役割</li> <li>・ 訪問介護の制度と業務内容 介護保険制度における運営基準等の理解</li> <li>・ チーム運営方式の理解</li> <li>・ 24時間対応巡回型訪問介護の理解</li> <li>・ 在宅介護支援センター等関係機関との連携 介護保険制度における居宅介護支援との連携</li> <li>・ 近隣・ボランティア等との連携</li> <li>・ 関連職種の基礎知識</li> <li>・ 訪問介護業務においてとるべき基本的態度</li> <li>・ 福祉業務従事者としての倫理</li> <li>・ サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等(事例を用いて理解を深めることが、望ましい)</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
4 老人及び障害者の疾病、障害等に関する講義（3時間）		
(5) サービス利用者の理解 （3時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者（児）の心身の特徴と生活像を把握し、援助の基本的な方向性を理解する</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）の家族に対する理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者（児）の心身と生活像の理解</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）への援助</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）の家族の理解と援助</li> </ul>
5 基礎的な介護技術に関する講義（3時間）		
(6) 介護概論 （3時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する</li> <li>・ 在宅介護の特徴とすすめ方を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の目的、機能と基本原則</li> <li>・ 介護ニーズと基本的対応</li> <li>・ 在宅介護の特徴とすすめ方</li> <li>・ 介護におけるリハビリテーションの視点</li> <li>・ 福祉用具の基礎知識と活用</li> <li>・ ターミナルケアの考え方</li> <li>・ 介護者の健康管理</li> </ul>
6 家事援助の方法に関する講義（4時間）		
(7) 家事援助の方法 （4時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者（児）への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）への家事援助に必要な栄養、調理、被服、住居管理等の知識を学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事援助の目的、機能と基本原則</li> <li>・ 家事援助の方法</li> <li>・ 家事援助における自立支援</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）と栄養、食生活のあり方</li> <li>・ 食品の保存・管理</li> <li>・ ゴミの始末、調理器具、食器等の衛生管理</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）への調理技術（味付け、きざみ食等）</li> <li>・ 糖尿病、高血圧等に対応する特別食</li> <li>・ 高齢者、障害者（児）と被服</li> <li>・ 快適な室内環境と安全管理</li> </ul>
7 医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義（5時間）		
(8) 医学の基礎知識 （3時間）	<p>高齢者、障害者（児）の在宅生活援助に役に立つ知識を中心に家庭の医学・在宅看護の基礎知識を理解する （介護保険法の対象となる特定疾病の概要を加える）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒 等</li> <li>・ 感染症の理解と予防 MRSA、B型肝炎、疥癬、梅毒等</li> <li>・ 身体を観察 観察の視点、体温測定、血圧測定等</li> <li>・ 薬の飲ませ方と保管</li> <li>・ 医療関係制度の基礎知識</li> <li>・ 介護保険法における特定疾病の概要</li> </ul>
(9) 心理面への援助方法 （2時間）	<p>高齢者、障害者（児）の在宅生活援助に関連する心理面への援助方法を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心理面への援助の必要性和方法</li> <li>・ レクリエーションの視点と実際</li> </ul>

教 科 名	目 的	内 容
Ⅱ 実技講習 17時間 ロールプレイ等については見学のみで修了することがないことを原則とする		
8 福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習 (4 時間)		
(1) 共感的理解と基本的態度 (4 時間)	サービスの利用者の立場に立った理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する	<p>ロールプレイ等の方法によるサービス提供場面の演習を通して、サービス利用者に対する共感的理解と基本的態度を形成する</p> <p>訪問・退出時の挨拶  傾聴的態度、信頼関係の形成  物の処分・移動における言葉かけ  銀行入金代行業務や買い物業務時の注意点 (レシートの取得 等)  できないことの拒否の仕方  助言の仕方  認知症高齢者等とのコミュニケーション  視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション等  ※親密さと無礼の境目 (「キクちゃん」等の幼児語使用) 等にも留意して演習のこと</p>
9 基礎的な介護技術に関する演習 (10時間)		
(2) 介護技術入門 (10時間)	食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を修得する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の介護</li> <li>・ 排泄・尿失禁の介護</li> <li>・ 体位・姿勢交換の介護 (座位保持、褥瘡への対応を含む)</li> <li>・ 車椅子への移乗、車椅子等での移動の介護</li> <li>・ 身体の清潔 (洗髪、清拭、口腔ケア等) の介護</li> <li>・ 緊急時対応法 (骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒等) 等</li> </ul> <p>※姿勢による食事の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護する等、可能な限り実践的な講習とする</p>
10 事例の検討等に関する演習 (3 時間)		
(3) 訪問介護の共通理解 (3 時間)	訪問介護における援助方法と実際について共通の理解を図る	<p>現任の主任訪問介護員等を囲んで、事例検討や実践的内容のグループ討議を行う</p> <p>事例検討、記録のつけ方、上司への報告・相談の行い方等</p>

教 科 名	目 的	内 容
Ⅲ 実習 8時間 実習に先立ち、オリエンテーションを実施すること		
11 老人デイサービスセンター等のサービス提供現場の見学（8時間）		
(1) 在宅サービス提供 現場見学 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅サービス提供現場見学を通して、その役割・機能を理解する</li> <li>・ 訪問介護と他サービスとの連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護同行訪問見学</li> <li>・ (原則として3時間×1回以上実施)</li> <li>・ デイサービスセンター見学 (訪問看護同行訪問見学、在宅介護支援センター職員同行訪問、「在宅介護サービスガイドライン」の内容を満たす民間事業者が実施する在宅サービス同行訪問見学等に代えることができる)</li> </ul> <p>※実習方法の弾力的運用 在宅サービス提供現場見学については、見学時間の概ね半数を超えない範囲内で、ビデオ学習をもって同行訪問見学到に代えることができる</p>

## 修了時の評価ポイント

### 基礎理解とその展開 各科目の到達目標、評価、展開

#### 1 各科目の「到達目標・評価の基準」

##### (1) 「行動目標」

「行動目標」は、各科目が、実務においてどのような行動ができる介護職員を養成しようとするかを定義したものである。

研修修了時点でただちにできることは困難だが、研修事業者は、研修終了後一定の実務後にこの水準に到達する基礎を形成することを目標に、研修内容を企画する。

##### (2) 「修了時の評価ポイント」

「修了時の評価ポイント」とは、各科目の修了時に、知識や技術の習得度を評価するポイントとして、最低限理解・習得すべき事項を定義したものである。研修事業者は受講生が修了時にこの水準に到達できていることを確認する必要がある。

「修了時の評価ポイント」は評価内容に応じて下記のような表記となっている。

ア 知識として知っていることを確認するもの。

知識として知っているレベル

【表記】

- ・「列挙できる」 → 知っているレベル
- ・「概説できる」 → だいたいのところを説明できるレベル
- ・「説明できる」 → 具体的に説明できるレベル

筆記試験や口答試験により、知識を確認することが考えられる。

イ 基本的な知識や理論等に基づいて状況にあわせた思考ができることを確認するもの。

自らの体験や与えられた事例について、知識や理論に基づいてどのようなことを考察したら良いかがわかる、あるいは背景や根拠を説明できるレベル。

【表記】

- ・「事例に基づいて説明できる」

筆記による事例レポート、またはグループワーク、プレゼンテーション等により確認することが考えられる。

ウ 技術の習得を確認するもの。

実技演習で行った程度の技術を習得しているレベル。

【表記】

- ・「～できる」「実施できる」

教室での実技を行い確認することが考えられる。

#### 2 各科目の「内容例」

各科目の「内容例」に示す、「指導の視点」「内容」「考えられる展開例」は、各科目の内容・展開について例示したものである。

① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 尊厳を与えるための専門職としての意識を持った行動がとれる。</li> <li>2 利用者一人ひとりがその人らしい生活が継続できるよう、尊厳を支える介護を提供することができる。</li> <li>3 利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる。</li> <li>4 学習した生活支援を目標に、創意工夫のある取り組みを行うことができる。</li> <li>5 市民としての権利と義務をもち、社会生活を送る主体として利用者をとらえ、適切に対応、支援することができる。</li> </ol>
修了時の評価ポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 生活とは何かを説明でき、多様な生活を支援する重要性について、事例に基づいて説明できる。 例：生活とは人によって違うこと、その人らしい生活を尊重すること、これまでの生活の継続の重要性など</li> <li>1-2 ノーマライゼーションの概念を、高齢者や障害者の事例に基づいて説明できる。</li> <li>1-3 QOLの意味を説明でき、高齢者や障害者の生活の事例に基づいて説明できる。 例：主体性の尊重、自己決定、生活の質の向上を目指すということ</li> <li>1-4 家族による介護と専門職による介護の違いを説明でき、専門職が介護することの意義を、事例に基づいて説明できる。 例：自立支援、介護予防の重要性、虐待防止、身体拘束の禁止</li> <li>1-5 介護の目指すものは何かを説明でき、具体的な例をあげ、そのなかに含まれている介護の専門性を事例に基づいて説明できる。 例：生命の維持を中心とした介護からその人らしい生活を支援する介護への転換、生活の場を建物内に限定せず全ての人に地域生活支援を行うこと、介護の原則、機能・役割等</li> <li>1-6 自立支援やICFの概念について、高齢者や障害者の事例に基づいて説明できる。</li> <li>1-7 すべての人に対する地域生活支援の意義、役割について概説することができる。</li> <li>1-8 高齢者や障害者が、地域で生活を継続するために、各種の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルなサービス・活動とのトータルなネットワークの重要性について概説できる。 例：公的サービスとしてのフォーマルサービス、ボランティアや近隣の人々などによるインフォーマルサービスについて</li> <li>1-9 高齢者や障害者の近隣の人々や地域の人々に対して、意識啓発が必要な場面や状況を具体的に説明でき、啓発の方法について説明できる。</li> <li>1-10 虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシー等を傷つける介護を説明でき、対応策を説明できる。</li> </ol>

# イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間観や人間像の理解に基づいた尊厳を支える介護・福祉について理解させる。</li> <li>・介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点の形成を促す。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間理解と尊厳               <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間理解の視点、豊かな人間観、多様な価値観、○老い、○尊厳、○死生観、○性</li> </ul> </li> <li>・生活の考え方               <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の定義、○生活支援の考え方</li> </ul> </li> <li>・福祉の支援の考え方               <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの福祉の考え方の流れ、○ノーマライゼーション、○ＱＯＬ、○家族介護から社会介護へ、○エンパワメント、共生</li> </ul> </li> <li>・介護の基本的な視点と意義               <ul style="list-style-type: none"> <li>○尊厳を支えるケア、○介護の定義、○介護職員の専門性、○健康かつ主体的・能動的な生活に向けた支援（自立支援、尊厳の保持・自立支援のために保障すべきケアの水準）、○ＩＣＦの視点に基づく援助、○介護の専門性とチームケア</li> </ul> </li> <li>・地域生活支援と保健・医療・福祉サービス及びインフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク               <ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての人を対象とする地域生活支援、○地域アセスメント、○資源調整と啓発、○フォーマルサービスやインフォーマル活動等のトータルなネットワークの重要性</li> </ul> </li> <li>・利用者の権利と尊厳               <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の権利擁護・アドボカシー、○虐待の防止、○身体拘束の禁止</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害があっても地域のなかでの望ましい暮らしを続けるために、尊厳を支えるケアや生活支援のあり方・方法等について、自分自身の生活に照らして考察できるように展開すること。</li> <li>・市民として社会生活を送る高齢者や障害者等へのインタビューなどを通して、それぞれが歴史を重ね、さまざまな社会関係を持ち、主体的に暮らす市民であることが理解できるように展開すること。</li> <li>・介護職員へのインタビューなどを通して介護の意義や専門性、働きがいなどを考察できるように展開すること。</li> <li>・虐待、身体拘束がおきてしまう背景、権利擁護のあり方などについて、事例をもとに考察できるように展開すること。</li> </ul>



② 老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解（30時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 サービスの種類、相談窓口、サービス利用の流れが分かり、利用者に正確に情報提供、助言等が行える。</p> <p>2 法・制度の理解とサービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える。</p> <p>3 利用者の生活を支える適正なサービス利用のあり方について、制度の理念や主旨に沿って考えることができ、利用者や家族の理解を得ることができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>2-1 高齢化率とは何かについて説明でき、日本の高齢化率の状況、高齢化の要因について、主要なポイントを説明できる。</p> <p>2-2 わが国の租税・社会保険料負担と社会保障給付の状況を説明できる（国民負担率と社会保障給付率について、言葉の意味と水準の高低を説明できる）。</p> <p>2-3 介護保険制度が成立した社会的背景や国民の意識について、主要なものを列挙できる。</p> <p>2-4 介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠を説明できる（税が財源の半分であること、1号被保険者と2級被保険者の負担、利用者負担割合、施設の居住費・食費負担等）。</p> <p>2-5 介護保険制度の代表的なサービスの種類と内容について、概説できる。</p> <p>2-6 ケアマネジメントのしくみ、機関やその役割について、概説できる。</p> <p>2-7 利用者の立場から、サービスの利用の流れや契約について説明できる。</p> <p>2-8 介護報酬の基本構造（在宅の区分支給限度基準額や主要サービスの報酬の決まり方）を概説できる。</p> <p>2-9 生活全体の支援の中で、介護保険制度の前提・制約（不適正事例や介護予防を含む）について概説できる。</p> <p>2-10 事業所の介護サービス情報の公表制度を概説できる。</p> <p>2-11 高齢障害者が利用できる障害者福祉制度を列挙できる。</p> <p>2-12 高齢者医療制度について概説できる。</p> <p>2-13 基礎年金の仕組みの大枠と、基礎年金の保険料・年金額の概ねの額を答えられる。</p> <p>2-14 権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について概説でき、相談できる機関について例示できる。</p> <p>2-15 自分の住んでいる市町村の介護保険サービス及び社会資源を具体的に説明できる。</p> <p>2-16 代表的な福祉の先進国を挙げ、わが国の社会保障の状況や特色について、他の福祉先進国と比べて概説できる。</p>

# イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法、障害者自立支援法を中心とした高齢者・障害者の医療・保健・福祉制度及びサービスについて理解させる（「制度観」を醸成する）。</li> <li>・各サービスの役割と業務について理解し、利用者の立場に沿ってサービス利用の流れを理解させる。</li> <li>・各地域の制度・サービスの現状・特徴について理解させる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者保健福祉制度と施策               <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者保健福祉の背景と動向、○介護保険制度の概要、○その他高齢者保健福祉制度</li> </ul> </li> <li>・障害者福祉制度と施策               <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害者福祉の背景と動向、○障害者保健福祉制度の概要</li> </ul> </li> <li>・その他制度・施策               <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療制度、○年金制度、○住宅と居住施策、○児童福祉、○生活保護、○地域福祉施策、○成年後見、権利擁護、虐待防止などの制度・施策</li> </ul> </li> <li>・社会保障制度改革の背景               <ul style="list-style-type: none"> <li>○人口の動向、○負担と受給のバランス、世代間公平</li> </ul> </li> <li>・介護サービスの現状、動向、利用支援等               <ul style="list-style-type: none"> <li>○各サービスの種類、内容、その役割、○ケアマネジメントのしくみ、機関とその役割、○業務内容、運営基準、契約等の理解、○小規模・個別ケア、ユニットケア、○介護予防と地域包括支援センター、○日常生活圏域と小規模多機能サービス、○第三者評価、介護サービス情報の公開、○苦情の受け付け、○利用者からみたサービス利用の流れと利用支援等の留意点</li> </ul> </li> <li>・自分の住む街の制度・サービス               <ul style="list-style-type: none"> <li>○サービス事業所、○サービス提供体制、○保険料とサービス水準、○都道府県、市区町村独自の施策・制度</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活者の立場から、どのようなサービスがあり、利用できるのかを理解させた上で、専門職として利用者に対してどのような支援を行うべきかを考察できるよう展開すること。</li> <li>・公費を財源にしたサービスの意義とともに、その限界についても利用者との葛藤場面などの事例を素材に検討し、専門職としての役割や対応のあり方について考察できるよう展開すること（ボランティア等と公的サービスの組み合わせの視点も形成する）。</li> <li>・自分の住む地域のサービス、保険料などを具体的に調べることなどにより、生活者・利用者としての立場、専門職としての立場から制度を多面的に捉えられるよう展開すること。</li> </ul>

③ 老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる（疾病と症状、障害、感染症の内容を含むこと）。 例：外出介助を行う際のアセスメント項目、入浴介助のアセスメント項目</p> <p>2 アセスメントの結果に基づいて、ケアプラン・サービス計画を確認でき、個別の介護方法に展開できる。</p> <p>3 異変に気づき、対応できる（早期に発見できる）。 ①「いつもと違う」状況を発見するための、日々の観察と「いつもの状況」を知る。 ②バイタルサインを測定できる。 ③日々の観察と「いつもの状況」を把握し、いつもと違う状況を発見できる。さらに、異変の状態のアセスメントを行い、適切な判断及び応急対応、連絡ができる。</p> <p>4 感染予防に配慮した介護が展開できる（うがい、手洗いのタイミング、方法）。</p>
修了時の評価ポイント	<p>3-1 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴について説明できる。</p> <p>3-2 高齢者の生理的な変化に伴う基本的な生活上の留意点（睡眠や栄養など）について説明できる。</p> <p>3-3 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、予防について説明できる。</p> <p>3-4 高齢者の疾病による症状や訴えについて、その内容・特徴を具体的にあげるとともに、基本的な対応方法を事例に基づいて説明できる。 例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、反側感覚障害等を生じる等</p> <p>3-5 介護保険での特定疾病の種類を列举することができる。</p> <p>3-6 高齢者に起こりやすい主な感染症の種類とその特徴、発病のメカニズム及び基本的な予防法について概説できる。</p> <p>3-7 障害の概念（ICIDH、ICF）について、その変遷も踏まえて説明できる。</p> <p>3-8 各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について概説できる。</p> <p>3-9 バイタルサインの種類とメカニズム、意味するところ、基本的な計測のしかた等について、具体的な生活場面に基いて説明できる。 例：入浴の際の血圧のメカニズム等</p>

# イ 内容例

指導 点 の 視	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢・老化に伴う変化及び各種障害、主要疾患の概要について理解させる。</li> <li>・介護場面で直面する頻度の高い症状、疾病、障害を医学的に理解させる。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢と生理               <ul style="list-style-type: none"> <li>○加齢の生理学、○高齢者の栄養と睡眠</li> </ul> </li> <li>・高齢者に多い疾病の医学的理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○三大死因の疾病、○高血圧と糖尿病、○循環器系疾患、○眼科疾患、○皮膚科疾患、○泌尿器系疾患、○呼吸器疾患、○筋骨格系疾患、○精神疾患、○神経系疾患、○介護保険での特定疾病</li> </ul> </li> <li>・感染症の理解と予防               <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症の種類と特徴、○高齢者に起こりやすい感染症（インフルエンザ、ノロウィルス、肺炎、結核、MRSA、レジオネラ菌、トキソプラズマ症、カンジタ症、疥癬、白癬、等）、○予防と留意点（加熱、日光、アルコール、逆性石鹼、塩素等による消毒・滅菌、十分な手洗い・うがい、室内換気、清掃等による衛生面への気配り、抵抗力の増強等）、○感染症の媒介とならないための介護上の留意点</li> </ul> </li> <li>・疾病、障害と生活支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害の概念、○知的障害、ダウン症、自閉症、学習障害等、○身体障害（脳性麻痺、脊髄損傷と肢体不自由等）、○精神障害（統合失調症、気分障害、人格障害及び神経症等）、○視覚障害、言語・聴覚障害、○内部障害（心機能障害、腎機能障害等）</li> </ul> </li> <li>・訴えと症状の理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康チェックとバイタルサイン、○呼吸器症状と感染症等の疾病、○消火器症状と食中毒等の疾病、○その他の訴え・症状と疾病（痛み、めまい、食欲不振、しびれ、口腔内違和感、浮腫、腫脹、脱力感等）</li> </ul> </li> </ul>
考 え ら れ る 展 開 例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障害者の疑似体験プログラム、視聴覚教材の活用などによって、具体的なイメージをもって理解できるよう展開すること。</li> <li>・具体的な介護や生活援助の場面と関連付けながら、障害や疾病等の医学的な根拠や留意点を確認することの大切さが理解できるよう展開すること。</li> </ul>

④ 認知症の理解（30時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 認知症の利用者がもつ生活機能を積極的に見出してその機能が発揮できるよう支援し、利用者の尊厳を保持する。</p> <p>2 認知症の医学的背景を理解した上で、介護の専門職として、認知症の利用者の行動、生活状況を的確に把握することができる。</p> <p>3 認知症の障害や特徴を踏まえ、認知症の利用者が構築している認知的世界を理解し、安定した状態で過ごせるように介護を提供できる。</p> <p>4 認知症の障害や行動を踏まえ、常に心身の状態の観察や行動を見守り、適切に対応することができる。</p> <p>5 認知症の利用者に対して生活上の不適切な制限を行わないよう、対応・配慮ができる。</p> <p>6 認知症利用者の家族の負担を理解し、適切に対応できる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>4-1 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて説明できる。</p> <p>4-2 認知症の基本障害と二次的に発生している問題とみなされがちな行動等の基本的特性、及びそれに影響する要因について説明できる。</p> <p>4-3 認知症と間違えられやすい症状について説明できる。</p> <p>4-4 認知症の心理・行動の理解の考え方、ポイントについて説明できる。 例：「できなくなってしまった」とみなすのではなく、人間として役割や行動を行うことのできる存在であるとみなし、共感的に理解し、受け入れ、尊重する。二次的に発生している問題とみなされがちな行動等の多くは、そのような状況に置かれれば、人間として当然発生する行動等であること。他者に対する信頼感の向上に努めること。自信や現実感、生活感の向上に努めること等</p> <p>4-5 認知症の利用者への対応、および介護の原則について、事例に基づいて説明できる。 また、若年性認知症の特徴についても、同様に説明できる。 例：本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、成功感・達成感による自信を形成する、相手の世界に合わせる、説得しない、失敗しないような状況をつくる、閉じこめる等不当な制限を加えない等</p> <p>4-6 認知症の利用者の健康管理上の留意点、廃用性症候群予防について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>4-7 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、事例に基づいて説明できる。 例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること</p> <p>4-8 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて説明でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を、事例に基づいて説明できる。 例：相手の構築している認知的世界を推察し、共感を伴った会話を進めること、現実を示して頭から否定しない、悪口を言わない、いい加減にあしらわない、ごまかさない、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通したコミュニケーション、相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する。</p> <p>4-9 認知症の利用者への音楽療法、回想法、動作法、バリデーション、レクリエーション、アクティビティ等のねらい、内容、および生活場面での活用の視点について概説できる。</p> <p>4-10 認知症の利用者への音楽療法、回想法、動作法、バリデーション、レクリエーション、アクティビティ等の実技演習を経験している。</p> <p>4-11 認知症の利用者の基本的障害の典型的な事例について、対応の考え方や方法、ポイントなどについて、具体的に説明できる。</p> <p>4-12 認知症の利用者の問題とみなされがちな行動の典型的な事例について、対応の考え方や方法、ポイントなどについて、具体的に説明できる。</p> <p>4-13 認知症介護における医療・保健・福祉サービスとの連携の必要性および実際について、事例に基づいて説明できる。 例：主治医・保健師等との連携、地域福祉権利擁護事業・成年後見制度・消費者保護制度等の活用、地域のインフォーマルサービスの活用等</p> <p>4-14 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて説明でき、さらに専門家として、家族との関わり方、対応について、事例に基づいて説明できる。</p>

## イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病理や症状、治療について学ばせる。</li> <li>・認知症の利用者の支援の視点、介護の原則について学ばせる。</li> <li>・認知症の利用者への援助方法を学ばせる。</li> <li>・認知症の利用者の家族の立場を理解させる。</li> <li>・認知症を支える専門職の役割を学ばせる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の医学的背景の理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別等、○認知症の問題となる基本障害と行動、○認知症を引き起こす原因疾病（脳血管性認知症、アルツハイマー病、ピック病、ヤコブ病など）、発生誘因、○認知症とまちがえられやすい症状、○若年性認知症</li> </ul> </li> <li>・認知症の心理・行動の理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の心理・行動モデル、○症状と障害の考え方、○問題とみなされがちな行動のとりえ方と対応</li> </ul> </li> <li>・認知症の利用者への支援・介護の考え方               <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護の原則と観察（寄り添うケア、身体面・精神面・社会関係・服薬状況などを含む観察）、○健康管理、廃用性症候群予防、○生活環境、○社会活動、○コミュニケーション（言語的・非言語的コミュニケーション等）、○音楽療法、回想法、動作法、バリデーション、レクリエーション、アクティビティ等、○問題とみなされがちな行動と介護職員としてのとりえ方（せん妄、妄想、作話、帰宅願望、徘徊、昼夜逆転、不潔行為、興奮、大声・奇声、異食、自傷・他害、収集癖、性的問題行動等）</li> </ul> </li> <li>・認知症介護における医療・保健・福祉、関係機関、地域資源との連携、および自立支援のための地域による支え合い</li> <li>・家族へのケア               <ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の心理の共感的な理解、○専門家としての関わり、対応の方法（疾病の理解、サービスの活用、家族のストレスケア、助言）</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材の活用、グループワークなどによって、認知症による生活上の障害を具体的なイメージをもって理解させるとともに、専門職としての支援の着眼点・関わりのあり方について具体的に考察できるよう展開すること</li> <li>・コミュニケーションや回想法等の実技演習、ケアプランの事例研究や模擬立案などによって、具体的な支援のあり方を考察できるよう展開すること。</li> <li>・介護者と同じ生活の状態を体験したり、介護を受けるなど、利用者の気持ちを理解できるよう展開すること。</li> <li>・コミュニケーションについては視聴覚教材の活用、ロールプレイなどをまじえて展開すること。苦情等の事例の検討をまじえて展開し、行為や言葉の裏側にある利用者の心情やニーズを踏まえた対応策を検討させること。</li> <li>・基本的な介護技術については、実技演習を行うとともに、各介護の基本やなぜその介護を行うのかをチェックリスト・ワークシート等を利用して振り返り、技術と知識を一体的に確認すること。</li> <li>・基本的な介護技術については、自立を支援する観点から、介護度の軽いほうから徐々に重度化していく順に支援・介助のあり方を学ばせること（単に最重度の全介助を要する利用者への介護技術だけを学ばせることがないように留意する）。</li> </ul>

⑤ 介護におけるコミュニケーションと介護技術（90時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 利用者の心身の状態やありのままの生活を理解し、介護過程に沿って尊厳を支える介護を展開できる。</p> <p>①基本的な介護技術について、理論を踏まえた上で、それを応用して、自立支援の視点で介護を展開できる。</p> <p>②心身機能の低下に沿った介護方法の事例や理論を踏まえた上で、それを応用して、自立支援の視点で介護を展開できる。</p> <p>③介護予防の考え方と方法を理解し、利用者の状況に応じて実践できる。</p> <p>④適切なコミュニケーションに基づく利用者との協働によって、介護を展開できる。</p> <p>2 福祉用具、住宅改修等についての知識を持ち、利用者の生活を支えるという視点から、チームの中で助言や提案ができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>5-1 介護の目標や目的について尊厳や自立支援、ICFの考え方を取り入れて説明できる。</p> <p>5-2 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントと技法について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>5-3 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>5-4 高齢者、障害者（児）の心理的特徴について、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目して概説できる。 例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等</p> <p>5-5 「寄り添う」ケア、「黒子として支える」ケアと、必要なケアを行わない「放任」ケアの違いを説明できる。</p> <p>5-6 ターミナルにおける心理的な変化、死の受容について説明できる。</p> <p>5-7 障害の受容のプロセスについて概説でき、障害の受容プロセスを踏まえた介護職員としての対応の仕方、関係性の持ち方、心のケア等について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>5-8 高齢者に多い障害の特性を理解し、基本的な介護方法（対応）を、事例に基づいて説明できる。</p> <p>5-9 要介護度の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について、事例に基づき説明でき、実際に実施できる。</p> <p>5-10 生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>5-11 利用者の心的安定と活性化を図る介護のあり方（なじみの関係・生活環境、地域に開かれたケア）について、概説できる。</p> <p>5-12 在宅の生活における福祉用具・住宅改修の意義について説明できる。主な福祉用具の種類をあげ、その活用法について説明できる。住宅改修の基本的な考え方や具体的方法、配慮点等について、高齢者の障害の種類や程度、行動特性などに着目して説明できる。</p>

# イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の考え方、視点を理解させる。</li> <li>・利用者とのコミュニケーション、心のケアのための、基礎的態度、技術を習得させる。</li> <li>・利用者を尊重し、個々人の尊厳を支えるケアの実際を学ばせる。</li> <li>・利用者の自立支援・地域生活支援の観点から、心身機能の低下プロセスに沿って、介護の意味と基本的介護技術を習得させる。</li> <li>・介護予防の考え方と方法を習得させる。</li> <li>・福祉用具、住宅改修の意義、活用法について理解させる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の考え方・視点               <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の理解、○ICFの考え方の理解</li> </ul> </li> <li>・介護におけるコミュニケーションと信頼関係形成               <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者理解と共感、受容、○傾聴的態度、○自己覚知、気づき、○言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、○言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション、○アセスメントにつながるコミュニケーションのとり方、○専門職としての効果的なアドバイス</li> </ul> </li> <li>・高齢者、障害者（児）の理解と心のケア               <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者、障害者（児）の心理の理解、○高齢者、障害者（児）の人間関係、○日常生活における心的安定と活性化の視点と技術、○「寄り添う」ことの意義と実際、○感情表現できるような働きかけ、○利用者のペースや居場所の尊重など自立支援への配慮、○治療的かわりの可能性、○障害の受容の理解、○ターミナル・死の受容の理解</li> </ul> </li> <li>・基本的な介護技術の習得               <ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行、○移動、○移乗、○外出、○睡眠、夜間のケア、○食事、○口腔ケア、○排泄、○入浴、○衣服の着脱、○整容、○清潔（褥瘡の防止を含む）</li> </ul> </li> <li>・介護予防の考え方と方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の中の介護予防（心理的安定と活性化、身体機能の維持・向上等）、○介護予防プログラム（閉じこもり予防、筋力向上、栄養改善、口腔ケア等）の基礎</li> </ul> </li> <li>・福祉用具の活用と住宅改修による自立支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活環境の捉え方、○在宅の生活と福祉用具・住宅改修の意義、○福祉用具、住宅改修の基礎</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者と同じ生活の状態を体験したり、介護を受けるなど、利用者の気持ちを理解できるよう展開すること。</li> <li>・コミュニケーションについては視聴覚教材の活用、ロールプレイなどを交えて展開すること。苦情等の事例の検討を交えて展開し、行為や言葉の裏側にある利用者の心情やニーズを踏まえた対応策を検討させること。</li> <li>・基本的な介護技術については、実技演習を行うとともに、各介護の基本やなぜその介護を行うのかをチェックリスト・ワークシート等を利用して振り返り、技術と知識を一体的に確認すること。</li> <li>・基本的な介護技術については、自立を支援する観点から、介護度の軽いほうから徐々に重度化していく順に支援・介助のあり方を学ばせること（単に最重度の全介助を要する利用者への介護技術だけを学ばせることがないよう留意する）。</li> </ul>



⑥ 生活支援と家事援助技術（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>１ 利用者の心身の状態や、ありのままの生活を理解し、自立支援や介護予防の観点から、介護過程に沿って家事援助を展開できる。</p> <p>①基本的な家事援助技術（調理、掃除、洗濯、室内環境の整備等）についての知識・技術を有し、それを応用して、自立支援の視点で家事援助を展開できる。</p> <p>②予防的な家事援助を展開できる。</p> <p>２ 当たり前の生活、なじみの関係、その人らしい生活を継続していくために、どのような支援が必要なのかを考え、家事援助が展開できる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>６－１ 介護（生活支援）における「家事援助（技術）」の意義・役割を説明できる。</p> <p>６－２ 家事援助の機能と基本原則について説明できる。</p> <p>６－３ 高齢者、障害者（児）の家庭、経済生活について理解し説明できる。高齢者の生活してきた時代背景・生活用品等を踏まえて生活支援を行うことの重要性を説明できる。</p> <p>６－４ 栄養ケアマネジメントの考え方、流れについて概説できる。</p> <p>６－５ 高齢者、障害者（児）に必要な栄養素とその働き、栄養所要量について、概説できる。</p> <p>６－６ 調理方法の基本的な考え方と調理技術について具体的に説明できる。</p> <p>６－７ 生活習慣病の疾病や症状に応じた特別食の留意点や調理上の工夫について、具体的に説明できる。</p> <p>６－８ 食品の扱いや調理における衛生管理上の留意点、および関連法規について、具体的に説明できる。</p> <p>６－９ 調理の実技演習で経験した食事を自分で作ることができる。</p> <p>６－１０ 高齢者や障害者（児）にとっての被服の役割と機能について説明できる。</p> <p>６－１１ 衣類の管理、洗濯方法、清潔の保持の留意点について、具体的に説明できる。</p> <p>６－１２ 高齢者や障害者（児）にとっての住宅の役割と機能について説明できる。</p> <p>６－１３ 快適で安全な住居、室内環境の整備の意義や留意点について具体的に説明できる。</p> <p>６－１４ 掃除の基本的な用具や方法について説明できる。</p> <p>６－１５ 掃除・洗濯の基本的な用具を用いて（掃除機、ほうき、ぞうきん、洗濯機等）、適切な方法で掃除や洗濯を行うことができる。</p> <p>６－１６ 買い物等、金銭の扱いにおいて配慮する点について具体的に説明できる。</p>

# イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活全体を支援する視点に基づき、生活環境の整備と家事援助技術を学ばせる。</li> <li>・家事援助と介護予防、自立支援の関わりについて学ばせる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○現代生活の枠組み、○生活形成プロセス、○生活経営、○家事労働</li> </ul> </li> <li>・「生活支援」の枠組みの中における家事援助（技術）の意義・役割</li> <li>・高齢者、障害者（児）に対する家事援助の機能と基本原則               <ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲を引き出す働きかけ、○なじみの関係、なじみの家具調度・食器、○利用者に合わせた生活、○家事援助と介護予防、自立支援、○信頼関係の構築、○生活習慣の理解、多様な価値観の受容、○ニーズとディマンス、○秘密保持、○ノーマライゼーションの視点、○介護保険制度に規定される訪問介護の範囲、○社会資源、代替サービスの有効利用等</li> </ul> </li> <li>・食生活の支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者、障害者（児）と栄養ケアマネジメント、食生活のあり方（必要な栄養素とその働き、栄養所要量、栄養の偏りや過不足がもたらす生活習慣病やADLの低下等）、○調理方法の基本的な考え方と調理技術（基本的な調理方法、調理器具の使い方、調理上の工夫、材料や料理の保存方法等）、○生活習慣病等に必要な食事の知識・特別食、○食品衛生の基礎理解、食品衛生に関連した法規</li> </ul> </li> <li>・被服生活の支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者、障害者（児）と被服の役割と機能、○被服の管理、洗濯、清潔、○取り扱い表示の種類と意味、繊維の種類とおもな長所・短所</li> </ul> </li> <li>・住生活の支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者、障害者（児）と住居の役割と機能（生活行動と生活空間）、○快適な環境の維持と安全管理（音、光、換気・空調、清潔、防災等）、○室内整備と掃除、清潔な環境、○混乱や失敗を招かない環境作り、○場所間違い等の防止、○住居の中での事故と対応</li> </ul> </li> </ul>
考える展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例やビデオ教材などを用いて具体的な利用者像や生活の状況を想定し、家事援助の視点や支援内容を具体的に検討させること。</li> <li>・調理、被服、環境整備については実技演習を行うこと。</li> </ul>

⑦ 医療及び看護を提供する者との連携（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>１ 介護職員としての役割とその範囲を十分に踏まえた上で、医療・看護との連携の必要性を理解し、医療ニーズを持つ利用者に対して、チームの一員として適切な連携をとりながら介護を展開できる。</p> <p>２ 医療ニーズを持つ利用者に対して、介護を行う上での留意事項や報告事項を理解し、適切な観察、および報告、記録ができる。</p> <p>３ 非医行為の範囲について理解し、現場で適切な緊急時対応および応急処置を実践できる。</p> <p>４ ターミナルケアについて、本人・家族への説明と了解を得るなど、チームの一員として対応することができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>７－１ 医療・看護との連携の必要性について説明でき、その具体的な連携のとり方、および介護職員の役割について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>７－２ 非医行為の範囲について具体的に説明できる。</p> <p>７－３ 訪問看護の制度、援助内容について説明できる。</p> <p>７－４ 医療機器、医療用具の使用目的や利用者の生活上の留意点について概説できる。</p> <p>７－５ 主な薬の種類と効能、主な注意事項（服用方法、保管方法など）について概説できる。</p> <p>７－６ 褥そうの要因について概説でき、褥そう予防・悪化予防における介護職の役割と医療職との連携について説明できる。</p> <p>７－７ リハビリテーション医療の理念、目的、体系について説明できる。</p> <p>７－８ リハビリテーション医療の過程（急性期、回復期、維持期）ごとの特徴、リハビリテーションのあり方について、概説できる。</p> <p>７－９ リハビリテーションチームを構成する職種とそれぞれの役割、連携のしかたについて、事例に基づいて説明できる。</p> <p>７－１０ 緊急時にとるべき行動、応急処置の方法や留意点等について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>７－１１ ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、ならびに介護職員の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、事例に基づいて説明できる。</p>

## イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護との連携の必要性和チームの一員としての介護職員の役割を理解させる。</li> <li>・介護職員がふれる機会の多い医療機器や薬、リハビリテーション医療等に関する基礎知識を習得させる。</li> <li>・医療ニーズを持つ利用者に対して、医療・看護との連携の下で行う介護技術を習得させる。</li> <li>・ターミナルケアへの対応について理解させる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護との連携の基礎的理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療、看護との連携の必要性の理解と方法、○非医行為の範囲と対応の基礎</li> </ul> </li> <li>・訪問看護の基礎的な理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○訪問看護制度、○訪問看護の援助内容、○在宅医療・在宅看護の進展</li> </ul> </li> <li>・医療機器、医療用具、薬の基礎的理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○胃瘻、腸瘻、鼻腔栄養、中心静脈栄養、点滴、○吸入、吸引、○人工呼吸器、在宅酸素、○浣腸、摘便、○人工肛門、人口膀胱、○薬（種類と服用方法、副作用とリスク、多剤併用での相互作用）</li> </ul> </li> <li>・褥そう予防に関する基礎的な理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○要求と発生機序、○介護職が行う褥そう予防・悪化の防止、○医療職が行う褥そうの治療・処置</li> </ul> </li> <li>・リハビリテーション医療の基礎的理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念、基礎、○リハビリテーション医療の過程（急性期、回復期、維持期）とリハビリテーションマネジメント、脳卒中モデル、廃用性症候群モデル、○リハビリテーションチーム職種との連携</li> </ul> </li> <li>・緊急時の対応方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急時における連絡・連携と介護職員の役割</li> </ul> </li> <li>・ターミナルケアの対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ターミナルケアの条件と介護職員の役割</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護との連携については、事例から実際の対応方法や留意点、介護職員としての役割とその範囲（提案や調整等を含む）等について考察すること。</li> <li>・視聴覚教材の活用、在宅や介護施設で用いられる頻度の高い機器や用具の活用などによって、具体的なイメージをもって理解できるよう展開すること。</li> <li>・主な応急処置を実技で模擬経験すること。</li> </ul>

⑧ 介護における社会福祉援助技術（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>１ 利用者・家族のニーズや心情をくみ取り、その主体性を引き出すことができる。</p> <p>２ チームの一員として、社会資源との連携・活用をしつつ、利用者・家族に対して働きかけや関わりを持つことができる。</p> <p>３ 利用者・家族のニーズを把握し、社会資源に適切につなげるために、チームの中で提案をすることができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>８－１ 介護におけるソーシャルワークの重要性と、介護職員としてもつべき視点について説明できる。</p> <p>８－２ 「バイスティックの７原則」について概説でき、実際の介護場面において、「バイスティックの７原則」が活かされる状況について、具体例をあげて説明できる。</p> <p>８－３ 家族が抱きやすい心理や葛藤について概説でき、それに応じた適切なコミュニケーションや働きかけについて、事例に基づいて説明できる。</p> <p>８－４ 利用者の生活の場（施設、居宅）に応じて、利用者の生活空間を地域に広げるための具体的な方法やその際の留意点について、説明できる。</p> <p>８－５ 困難事例において、具体的な利用者や場面を設定して、様々な角度から、その対応方法について説明できる。</p> <p>８－６ 利用者の代行的な援助ではなく、動機づけやエンパワメント、社会資源の活用等により、自立支援を行う方法について、具体的な利用者や場面を設定して、説明できる。</p> <p>８－７ 虐待、消費者被害等が疑われる典型的な徴候・場面などについて説明できるとともに、虐待、消費者被害等が疑われる場合の原則的な対応の考え方を説明できる。</p>

# イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護において求められるソーシャルワークについて、理念を理解し実践的援助技術を習得させる。</li> <li>・地域を含めた生活環境づくりの視点と方法を理解させる。</li> <li>・困難事例等への対応において、チームケアの一員として、どのような役割を果たすべきか考え、連携の具体的方法を学ばせる。</li> <li>・利用者家族とのコミュニケーション技術、家族支援の具体的方法を学ばせる。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるソーシャルワークの基礎的理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護におけるソーシャルワークの必要性、○ソーシャルワークの目的と内容、○ソーシャルワークの展開（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）</li> </ul> </li> <li>・介護における相談援助技術の習得               <ul style="list-style-type: none"> <li>○相談援助とバイステティックの7原則、○高齢者、障害者（児）の家族支援、○高齢者、障害者（児）の家族の心理の理解</li> </ul> </li> <li>・地域に根ざした包括的なケアの必要性               <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域生活を支える総合的な在宅ケアシステム（24時間・365日の地域生活の支援、利用者・家族のニーズと地域密着型サービス等各種サービス・機関の連携）、○各種社会資源・インフォーマルサービスの活用・開発（市民活動・NPO、生協、農協等）、○事業者間連携、○施設から在宅へのサービス展開</li> </ul> </li> <li>・地域生活支援の実践               <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の生活空間を地域に広げる視点、○利用者のインフォーマルなつながりの重要性、○近隣への依頼・連携の方法、○地域環境を生かしたケアの実践（地域との交流、外出プログラム等）、○地域資源とのネットワークづくり</li> </ul> </li> <li>・困難事例に対する援助活動の展開               <ul style="list-style-type: none"> <li>○サービス拒否、多問題ケース、家族とのトラブル、○不適正事例</li> </ul> </li> <li>・虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護サービスを通じての問題発見、○問題が疑われる場合の対応、○相談機関等との連携、○エンパワメント、アドボケート</li> </ul> </li> </ul>
考える展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例やビデオ教材などを用いて具体的な利用者像を想定し、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法、介護職員の役割等について討議し、ロールプレイなどを行うこと。</li> </ul>

⑨ 生活支援のためのアセスメントと計画（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>１ アセスメント、ケアプラン作成、各サービス計画の関係や流れを理解し、生活全体を支援するという観点から、どのような援助が必要かを考えることができる。</p> <p>２ 適切なアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行うために、基本的な観察、記録、情報伝達を行うことができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>９－１ 「生活全体をアセスメントする」ことやニーズの把握の仕方について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>９－２ 生活の活性化やＱＯＬの向上につながる生活プラン、ケアプラン、サービス計画作成の重要性、および関係を説明できる。 ○介護目標の明確化 ○ＩＣＦの視点 ○重度化の予防 ○サービスの効果測定、評価が可能となる ○生活プランが欠如することの問題</p> <p>９－３ ケアマネジメントのプロセスとケアプランの内容、作成手順について、説明できる。</p> <p>９－４ アセスメントの意義、目的、留意点について説明できる。 ○利用者・家族の主体的参加 ○科学的な視点 ○生活全般で捉える ○生活ニーズの明確化 ○優先順位の確定・アセスメントの継続</p> <p>９－５ 地域との繋がりやフォーマルサービス、インフォーマルサービスなどの社会資源の活用をケアプランに反映することの意義と、その視点、方法について説明できる。</p> <p>９－６ ＩＣＦの視点を生かしたケアプランの作成ポイント、ツールの使い方、既存ツールへの応用のしかた等について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>９－７ 各サービス計画（訪問介護計画、通所介護計画等）の位置づけ、意義、および作成手順について、説明できる。</p> <p>９－８ サービス担当者会議やケアカンファレンスの意義について説明できる。</p> <p>９－９ アセスメント、モニタリング、カンファレンスをする上での、コミュニケーション、観察・記録の重要性およびポイントについて、事例に基づいて説明できる。</p> <p>９－１０ ケアプラン等に基づいたサービスの流れにおける、介護職員の役割、および事業所、職種間の連携のあり方について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>９－１１ 地域生活支援のための地域環境等のアセスメント、家族への説明等の視点・方法・留意点について説明できる。</p>

# イ 内容例

指導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ケアプラン」のアセスメント、作成方法を学び、生活全体をプランする「生活プラン」について学ばせる。</li> <li>・アセスメントからケアプラン作成の流れと居宅サービス計画（在宅の場合個別サービス計画（訪問介護計画等））との関係を理解させる。</li> <li>・ケアプランに基づいたサービスの流れと、事業所と職種間の連携について理解させる。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活プランの考え方</li> <li>○生活全体のアセスメント、○生活全体のプランニング支援、○生活プランとケアプラン</li> <li>・ケアプランとサービス計画の内容・機能</li> <li>○施設ケアプランと居宅ケアプランの内容、○居宅・施設サービス計画・各サービス計画（訪問介護計画、通所介護計画等）とサービスの関係</li> <li>・ケアプランとサービス計画の作成手順</li> <li>○アセスメントとニーズの把握、○居宅ケアプランの作成、○ＩＣＦに基づくアセスメントや実践への展開、○各サービス計画（訪問介護計画、通所介護計画等）の作成</li> <li>・ケアプラン・サービス計画とサービス提供の実際</li> <li>○ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録、○介護職員のアセスメントと連携、ケアプラン・サービス計画の見直し</li> <li>・地域生活支援のための地域環境のアセスメント技術と留意点</li> <li>○利用者の希望を把握・推測するための視点・方法、○利用者のインフォーマルなつながりの把握の視点・方法、○外出支援のプログラム等における安全への配慮の視点・方法、○地域生活支援の際の利用者・家族への説明・同意・契約</li> </ul>
考 え ら れ る 展 開 例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例などを用いて具体的な利用者像を想定し、情報収集、アセスメント、ケアプラン・サービス計画策定などの演習を行うこと。</li> <li>・一つの事例に対する複数のケアプランを比較検討するなど、生活全体を支援するという考え方からどのようなプランが求められるのかを考察できるよう展開すること。</li> </ul>



⑩ 介護職員の倫理と職務（３０時間）

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>１ 介護職員の倫理や職務、基本的マナー等について理解し、専門的な職業人としての自覚を持って行動できる。</p> <p>２ 尊厳が損なわれた状態（虐待やそれに類する行為）を発見する視点を持ち、改善に向けた行動ができる。</p> <p>３ 介護職員の職務の特性を理解した上で、心身の自己管理を適切に行い、意欲を持って職務に取り組むことができる。</p> <p>４ 記録の機能と重要性を理解し、適切な記録を書くことができる。</p> <p>５ 打合せ、引き継ぎ、会議の設定、進行ができ、適切な発言等ができる。</p> <p>６ 同職種間、異職種間のチームワークを適切にとることができる。</p> <p>７ 積極的に研修等を受講し、自己研鑽に努めることができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>10-1 介護職員の職業倫理を列挙・説明できる。</p> <p>10-2 生命倫理に関わる昨今の社会的な事象について列挙できる。</p> <p>10-3 「パターナリズム」の概念についてわかりやすく説明でき、介護職員として踏まえておくべき倫理について説明できる。</p> <p>10-4 介護職員に求められる基本的なマナーのあり方やポイントについて具体的に説明できる。</p> <p>10-5 介護職員としての共通の職務内容と、事業別のサービス実施のプロセス、介護職員の職務内容の特性について説明できる。</p> <p>10-6 記録の機能と重要性について説明でき、事例に基づいて適切に記録を書くことができる。</p> <p>10-7 サービス提供の際の契約の重要性とその内容や手続の概略、介護職員として念頭におくべき基本的な留意事項について概説できる。</p> <p>10-8 打合せ、引き継ぎ、会議の機能と重要性について説明でき、開催頻度、進行方法等を説明できる。</p> <p>10-9 「ひやり・はっと」の事例、介護事故の予防と対策の組織的な取り組みについて、具体例を説明できる。</p> <p>10-10 感染症の予防と対策の組織的な取り組みについて、具体例を説明できる。</p> <p>10-11 身体拘束を行わないための組織的な取り組みについて、具体例を説明できる。</p> <p>10-12 介護職員の労働の権利と制度について説明できる。</p> <p>10-13 介護職員におこりやすい健康障害、受けやすいストレスについて列挙でき、それらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等について、事例に基づいて説明できる。</p>

## イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人としての倫理の重要性、自己管理の重要性を理解させる。</li> <li>・事業別の職務内容、介護職の倫理や職務について理解させる。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員の職業倫理               <ul style="list-style-type: none"> <li>○倫理と尊厳の理解、○利用者本位、自立支援、利用者の代弁、○守秘義務、○専門的、総合的なサービスの提供と積極的連携、○虐待等の発見と人権の擁護、○個人情報の保護と活用、情報開示、○所属機関と専門職としての倫理、○地域福祉の推進、○後継者の育成</li> </ul> </li> <li>・生命倫理               <ul style="list-style-type: none"> <li>○生命と倫理、○ターミナルにおける倫理（死の考え方、尊厳死と倫理）、○医療の進歩と倫理、○医療・看護の倫理、パターナリズム</li> </ul> </li> <li>・基本的マナー               <ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶・礼儀、○依頼、助言、配慮ある断り方、○利用者から金品を渡された場合の対応等</li> </ul> </li> <li>・介護職員の職場の仕組みと職務内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護業務の共通性と事業別の特性、○ケアマネジャー、サービス提供責任者等の役割とサービス実施のプロセス（要介護認定、サービス担当者会議、サービス計画、目標にそったサービスの実施、モニタリング）、○事業の特性に応じた業務の流れ（訪問介護、施設介護、グループホーム、通所介護等）、○同職種内のチームワークと他職種間との連携</li> </ul> </li> <li>・サービス提供時の契約と留意事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者との契約、○文書による確認、○物品の保管、○金銭管理、○事故における事業者・労働者の責任</li> </ul> </li> <li>・報告、会議、記録               <ul style="list-style-type: none"> <li>○打合せ、引き継ぎ、会議のもち方、進め方と発言の仕方、○記録の役割と書き方、活用法</li> </ul> </li> <li>・介護事故等の予防と対策への組織的取り組み               <ul style="list-style-type: none"> <li>○セーフティマネジメント、○ヒヤリ・ハットの事例の活用、○感染症の予防と対策、○身体拘束の禁止</li> </ul> </li> <li>・よいキャリアのための自己研鑽、心身の健康管理等               <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門職としての自覚と質の向上（OJT、Off-JT、自己啓発、資格取得）、○健康管理、ストレスマネジメント、○介護職員の労働の権利と制度</li> </ul> </li> </ul>
考えられる展開例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員の職業倫理については具体的な事例に基づき、問題点や対応策を考察できるよう展開すること。</li> <li>・職務理解については、業務フロー等に基づいて、サービス実施プロセスや職務内容の全体像が理解できるよう展開すること。</li> <li>・記録については、具体的な事例に基づき、記録のポイント・方法を学習すること。</li> <li>・報告や会議については模擬カンファレンスなどを含め展開すること。</li> <li>・介護職員のキャリアアップ、およびキャリアの展望が持てるような研修や自己研鑽について、具体例を紹介する。</li> </ul>

## 実習の経験目標、展開例

### ① 事前演習（８時間）

経験目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的・経験目標について説明を受け、自らの問題意識を整理する。</li> <li>・実習中の態度・心構え（挨拶服装などマナー／実習態度／職員との関係→報告、連絡、相談／利用者との関係→守秘義務・個人情報保護、健康管理）について説明を受ける。</li> <li>・事故防止のための注意点、基礎的な介護業務の方法・留意点について、指導を受ける。</li> <li>・実習記録の方法（書き方・留意点）について、指導を受ける。</li> <li>・実習先の施設・事業所の概要や特徴、実習日程について説明を受ける。</li> </ul>
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を円滑に実施するため、研修事業者において、実習の目標、スケジュール、留意点等についてオリエンテーションを行い、実習の課題・問題意識を形成する。</li> <li>・演習等により、基本的な介護技術の習得の有無を確認するとともに、事故防止の留意点を理解させる。</li> <li>・実習記録の書き方を理解させる。</li> </ul>

### ② 実習

#### ア 施設・居住型実習（８０時間）

経験目標	<p>＜説明を受ける、見学・閲覧する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。</li> <li>・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。</li> <li>・申し送りの場面を見学する。</li> <li>・カンファレンスを見学する。</li> <li>・介護記録や、ケアプランを閲覧する。</li> <li>・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。</li> <li>・PT、OT、ST等による機能訓練の場面を見学する。</li> <li>・主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。</li> <li>・自立のための福祉用具の使用法、取り扱いについて説明を受ける。</li> <li>・居室の環境、バリアフリーなどを見学する。</li> <li>・環境整備の方法について説明を受ける。</li> <li>・ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。</li> <li>・地域の関係機関等との連携について説明を受ける。</li> </ul> <p>＜経験する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な福祉用具（車イス、自助具等）を利用している利用者の介護を経験する。</li> <li>・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、コミュニケーションの機会を持つ。</li> <li>・補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。</li> <li>・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。</li> <li>・軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を、職員指導下で経験する。</li> <li>・一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめる。</li> <li>・実習記録を作成する。</li> </ul>
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護にあたっては、利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるように留意する。</li> <li>・また、介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるよう指導する。</li> </ul>

展 開 例	<p>＜初日＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、施設見学、職員紹介。</li> <li>・利用者への紹介。</li> </ul> <p>＜初日～５日＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の生活の流れを把握。</li> <li>・医療器具、福祉用具の使用法、取り扱いについて説明を受け、使用場面を見学する。</li> <li>・PT、OT、ST等による機能訓練の見学。</li> <li>・利用者とのコミュニケーション。</li> <li>・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法等に利用者とともに参加。</li> <li>・補助業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）。</li> <li>・軽度者の食事・口腔ケア、衣類の着脱、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で体験。</li> <li>・申し送り参加。</li> <li>・実習記録。</li> </ul> <p>＜６～１０日＞</p> <p>（＜初日～５日＞の内容を深めるとともに、下記を加える）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンス見学。</li> <li>・重度者への食事・口腔ケア、衣類の着脱、排泄、移動・移乗、体位変換を職員指導下で体験。</li> <li>・認知症の利用者への援助。</li> <li>・一人の利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察したことをまとめ、可能であれば模擬的に生活プラン、ケアプランを立案する。</li> <li>・記録、ケアプランを閲覧する。</li> <li>・各職種からの聞き取り、あるいは意見交換等を行う。</li> <li>・実習反省会。</li> </ul>
-------------	---

イ 通所・小規模多機能型実習（４０時間 ※イ、ウを合わせて）

経 験 目 標	<p>＜説明を受ける、見学・閲覧する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。</li> <li>・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。</li> <li>・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等、地域の関係機関との連携について説明を受ける。</li> <li>・カンファレンスを見学する。</li> <li>・介護記録や、ケアプラン、通所介護計画、介護予防通所介護計画を閲覧する。</li> <li>・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。</li> <li>・介護予防プログラムを見学する。</li> <li>・自立のための福祉用具の使用法、取り扱いについて説明を受ける。</li> <li>・環境整備の方法について説明を受ける。</li> </ul> <p>＜経験する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時の介助補助、健康状態の観察、私物持参品の管理補助を経験する。</li> <li>・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。</li> <li>・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。</li> <li>・食事、口腔ケア、衣類の着脱、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を、職員指導下で経験する。</li> <li>・実習記録を作成する。</li> </ul>
------------------	---

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所系サービスの機能・内容、および他の居宅サービスとの連携を理解できるよう留意する。</li> <li>・介護にあたっては、利用者の個別性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるように留意する。</li> <li>・また、介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるよう指導する。</li> </ul>
展開例	<p>&lt;初日&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション。</li> <li>・施設見学、職員紹介、利用者紹介。</li> </ul> <p>&lt;初日～3日&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のプログラムを把握。</li> <li>・配膳、環境整備。</li> <li>・送迎時の介護、送迎車乗降介護の補助。</li> <li>・到着後の健康状況観察補助。</li> <li>・私物持参品の管理補助、個別生活支援。</li> <li>・利用者とのコミュニケーション。</li> <li>・プログラム、行事への参加。</li> <li>・食事、口腔ケア、衣類の着脱、排泄、入浴、移動・移乗等の介護または補助を職員指導下で体験。</li> <li>・カンファレンス見学。</li> <li>・記録・通所介護計画等を閲覧する。</li> <li>・実習記録。</li> <li>・実習反省会。</li> </ul>

ウ 訪問介護実習（40時間 ※イ、ウを合わせて）

経験目標	<p>&lt;説明を受ける、見学・閲覧する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の概要や特徴、取り組み、利用者、職員体制について、説明を受ける。</li> <li>・事業所内での業務（チームケアのシステムや業務管理のしくみ等）について、説明を受ける。</li> <li>・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等、地域の関係機関との連携について説明を受ける。</li> <li>・カンファレンスを見学する。</li> <li>・訪問記録、訪問介護計画等を確認・閲覧する。</li> <li>・サービス提供責任者や担当ヘルパーに同行し、介護や利用者の生活環境に応じた家事援助の内容、工夫、利用者との接し方等を見学する。</li> </ul> <p>&lt;経験する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族とのコミュニケーションの機会を持つ。</li> <li>・可能な範囲で、身体介護、家事援助を経験する。</li> <li>・実習記録を作成する。</li> </ul>
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護サービスの機能・内容、および他の居宅サービス、関係機関との連携や、社会資源の活用状況等について理解できるよう留意する。</li> <li>・関係機関との連携や、社会資源の活用状況等について理解できるよう留意する。</li> <li>・利用者を取り巻く家族関係を理解し、配慮することの重要性を理解させる。</li> <li>・在宅の生活、利用者の日常生活の多様性、および介護の工夫の現状と自立に向けた支援の考え方について理解できるよう留意する。</li> </ul>

展開例	<p>＜初日＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、職員紹介。</li> </ul> <p>＜初日～3日＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の確認（利用者情報・訪問介護計画）</li> <li>・利用者への紹介・コミュニケーション。</li> <li>・身体介護の実際を体験する。</li> <li>・家事援助の実際を体験する。</li> <li>・カンファレンス見学。</li> <li>・訪問記録、訪問介護計画等を確認・閲覧する。</li> <li>・実習記録。</li> <li>・実習反省会。</li> </ul>
-----	--

## エ 地域の社会資源実習（4時間）

経験目標	地域の社会資源（介護保険事業以外のNPO、ボランティアグループ、当事者団体、社会福祉協議会など）を訪問し、活動の見学や、活動者に対するインタビューを行い、地域の中での暮らしを豊かにしていくための活動・サポートのあり方を考察する。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体の社会資源、サポートシステムについて、理解できるよう留意する。</li> </ul>

## ③ 事後演習（8時間）

経験目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中に記録した実習の経験内容、気づき、反省点、自己の介護観等をまとめ、目標および計画に照らして、達成状況を確認する。</li> <li>・実習終了後、以下の点について、自己を振り返り、お互いに発表、話し合い・検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習全般を通して率直な印象や感想、気づいたこと・学んだことについて。</li> <li>○基本的な介護技術に基づいて介護できたか、また介護の根拠について。</li> <li>○自己の介護技術において、自分としてうまくいった点、うまくいかなかった点、およびその背景や理由について。</li> <li>○職員との関わりや利用者との関わりにおいて、自分としてうまくいった点、うまくいかなかった点、およびその背景や理由について。</li> <li>○疑問な点や不安な点、および今後、それらの疑問や不安に対して介護職員としてどう考えるべきか、どう対処すべきかについて。</li> <li>○現段階での、介護職員としての自己の今後のあり方（目標、課題）について。</li> </ul> </li> <li>・介護過程の観点から、介護職員の職務や記録の書き方について、振り返って考察する。</li> <li>・利用者の生活やニーズを出発点に、フォーマル・インフォーマルの社会資源の役割、および介護職員の役割や業務について、振り返って考察する。</li> </ul>
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々人に実習の経験・気づき、自己の介護観等をまとめさせるとともに、個々人の経験を比較・相対化し、学びの共有化、意味付けを行う。</li> <li>・介護の現場における理想と現実の違いについて理解・認識を促す（例：現場で「できていないこと」を責めるのではなく、どのようにしてできるようにしていけるかを自分なりに考える機会にさせるなど）。</li> <li>・実習は介護の現場を体験的に理解する場であり、その経験がすべてではないことを理解させること。</li> <li>・介護行為の根拠となっている知識や基本的な介護技術を再認識させる。</li> </ul>

## 講師選定基準

## 介護職員基礎研修

科目名	講師の要件					
	1	2	3	4	5	6
生活支援の理念と介護における尊厳の理解(30時間)	社会福祉士	介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより該科目の担当に適任であると認められる者
地域福祉分野	社会福祉士	看護師・保健師	主任訪問介護員	介護福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより該科目の担当に適任であると認められる者
老人、障害者等が活用する一制度及びサービスの理解(30時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	社会福祉士	主任介護支援専門員	その他業績を審査することにより該科目の担当に適任であると認められる者	
老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解(30時間)	医師	看護師、保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより該科目の担当に適任であると認められる者		

生活支援 の分野	医師	看護師、保健師	介護福祉士	主任訪問介護員	大学院、大学、短期 大学、介護福祉士養 成校、福祉系高等学 校等において、該当 科目あるいは読み替 え可能な科目を担当 する教員(非常勤を 含む)	その他業績を審査す ることにより当該科 目の担当に適任であ ると認められる者
認知症の理解 (30時間)	医師	看護師、保健師	大学院、大学、短期 大学、介護福祉士養 成校、福祉系高等学 校等において、該当 科目あるいは読み替 え可能な科目を担当 する教員(非常勤を 含む)	その他業績を審査す ることにより当該科 目の担当に適任であ ると認められる者		
介護の分 野	医師	看護師、保健師	介護福祉士	主任訪問介護員	大学院、大学、短期 大学、介護福祉士養 成校、福祉系高等学 校等において、該当 科目あるいは読み替 え可能な科目を担当 する教員(非常勤を 含む)	その他業績を審査す ることにより当該科 目の担当に適任であ ると認められる者
レクリ エーシ ョン、ア ク ティビ ティー の分野	レクリエーション、ア クティビティー専門家	作業療法士	介護福祉士	看護師・保健師	大学院、大学、短期 大学、介護福祉士養 成校、福祉系高等学 校等において、該当 科目あるいは読み替 え可能な科目を担当 する教員(非常勤を 含む)	その他業績を審査す ることにより当該科 目の担当に適任であ ると認められる者
心理、コ ミュニ ケーション の分野	臨床心理士	介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期 大学、介護福祉士養 成校、福祉系高等学 校等において、該当 科目あるいは読み替 え可能な科目を担当 する教員(非常勤を 含む)	その他業績を審査す ることにより当該科 目の担当に適任であ ると認められる者
介護における コミュニケーション と介護 技術 (90時間)						



生活支援と家事援助技術 (30時間)	介護技術分野	介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	介護予防分野	看護師・保健師	社会福祉士	主任介護支援専門員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	福祉用具と住宅改修分野	理学療法士	作業療法士	介護福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	下記以外の分野	主任訪問介護員	介護福祉士	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	食物分野	管理栄養士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者

医療及び看護を提供する者との連携(30時間)	下記以外の分野	医師	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	リハビリテーション医療の分野	医師	理学療法士	作業療法士	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)
介護における社会福祉援助技術(30時間)	下記以外の分野	社会福祉士	介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)
	地域生活の分野	主任介護支援専門員	看護師・保健師	社会福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者
	困難事例対応の分野	主任介護支援専門員	社会福祉士	看護師・保健師	主任訪問介護員	大学院、大学、短期大学、介護福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)

生活支援のためのアセスメントと計画 (30時間)		主任介護支援専門員	保健師	主任訪問介護員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	
介護職員の倫理と職務 (30時間)	下記以外の分野	介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	
	生命倫理の分野	医師	看護師・保健師	介護福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	
事前演習 (8時間)		介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	
事後演習 (8時間)		介護福祉士	主任訪問介護員	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成学校、福祉系高等学校等において、該当科目あるいは読み替える可能な科目を担当する教員(非常勤を含む)	その他業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	

# 講 師 選 定 基 準

## 1級課程

科 目	講 師 の 要 件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
老人福祉の制度とサービス (4時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
老人保健・医療の制度とサービス (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
老人保健福祉の動向 (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
障害者(児)福祉の制度とサービス (4時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
障害者(児)福祉の動向 (4時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識

1級課程

2

科 目	講 師 の 要 件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
社会保障制度 (4時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
介護技術の展開 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
認知症高齢者の介護の実際 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
障害を持つ児童の介護の実際 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
身体障害者の介護の実際 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
精神に障害を持つ人々への介護の実際 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい

1級課程

3

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
困難事例検討 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
在宅ターミナルケアの 実際 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
ケアマネジメントの方法 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
訪問介護チーム運営方式の 実際 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
チームケアの実際 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
指導業務の必要性と方法 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい

1級課程

4

科 目	講 師 の 要 件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
カンファレンスの持ち方 と事例検討の方法 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
医学の基礎知識Ⅱ (8時間)	内科医師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					訪問介護に関する知識 ・医学に関する知識
在宅看護の基礎知識Ⅱ (4時間)	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					訪問介護に関する知識 ・医学に関する知識
心理学的援助方法の基礎知識 (4時間)	臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					
ケアマネジメント技術 (4時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
指導技術と介護技術の向上 (30時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 * 在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい

1級課程

5

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
困難事例等対応技術 (20時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>生活者支援の視点に立脚した介護方法論</li> <li>保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識</li> <li>*在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい</li> </ul>
福祉用具の使用技術 (6時間)	理学療法士	作業療法士	介護福祉士	医師	看護師、保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問介護に関する知識</li> <li>医学に関する知識</li> </ul>



# 講 師 選 定 基 準

## 2級課程

科 目	講 師 の 要 件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
福祉理念とケアサービスの意義 (3時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携する看護師・保健師、臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
サービス提供の基本視点 (3時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携する看護師・保健師、臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい
老人福祉の制度とサービス (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
障害者(児)福祉の制度とサービス (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
訪問介護概論 (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	介護福祉士	主任訪問介護員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			保険、福祉の制度とサービスについての知識 ・訪問介護の実務に関する具体的な知識

## 2級課程

2

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
訪問介護員の職業倫理 (2時間)	当該科目を担当する課の行政職員	介護福祉士	主任訪問介護員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目があるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・保険、福祉の制度とサービスについての知識 ・訪問介護の実務に関する具体的な知識
障害・疾病の理解 (8時間)	医師	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目があるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者				・訪問看護に関する知識 ・傷害・疾病に関する知識 ・高齢者・障害者(児)及びその家族の生活実態と心理に関する知識
	臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目があるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					
高齢者・障害者(児)の心理 (3時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目があるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・訪問看護に関する知識 ・傷害・疾病に関する知識 ・高齢者・障害者(児)及びその家族の生活実態と心理に関する知識 ・生活支援の視点に立脚した介護法論
	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において当該科目があるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		・訪問看護に関する知識 ・傷害・疾病に関する知識 ・高齢者・障害者(児)及びその家族の生活実態と心理に関する知識 ・生活支援の視点に立脚した介護法論

## 2級課程

3

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
介護概論 (3時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 生活者支援の視点に立脚した介護方法論 直接援助経験に基づく介護技術 自らの介護事例 保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識
介護事例検討 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 生活者支援の視点に立脚した介護方法論 直接援助経験に基づく介護技術 自らの介護事例 保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識
住宅・福祉用具に関する知識 (4時間)	理学療法士	作業療法士	介護福祉士	医師	看護師、保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	障害・疾病に関する知識 生活者支援の視点に立脚した介護方法論 住宅及び住宅改善に関する知識 福祉用具に関する最新の知識を含む知識と使用にあたっての技術
家事援助の方法 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	栄養士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			障害・疾病に関する知識 生活者支援の視点に立脚した介護方法論 栄養、調理、被服等、家政に関する知識
相談援助とケア計画の方法 (4時間)	社会福祉士	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		障害・疾病に関する知識 保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 生活者支援の視点に立脚したケアプラン作成技術を含むケアマネジメント方法論 カウンセリングに関する知識と技術

## 2級課程

4

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
医学の基礎知識 I (3時間)	内科医師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・訪問介護に関する知識 ・医学に関する知識
在宅看護の基礎知識 I (3時間)	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					・訪問介護に関する知識 ・訪問看護に関する知識
リハビリテーション医療の基礎知識 (2時間)	理学療法士	作業療法士	リハビリテーションを専門とする医師	言語療法の専門家	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		・訪問介護に関する知識 ・リハビリテーション医療に関する知識
共感的理解と基本的態度の形成 (4時間)	臨床心理士	介護福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者				・障害・疾病に関する知識 ・訪問介護についての具体的な知識 ・ロールプレイを含む臨床心理学に基づき共感性を高めるプラクティスの技術 ・実技講習を指導する技術
基本介護技術 (30時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとり活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・直接援助経験に基づく介護技術 ・自らの介護事例 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 ・実技講習を指導する技術

## 2級課程

5

科目	講師の要件						
	1	2	3	4	5	6	7
ケア計画の作成と記録、 報告の技術 (5時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		特に求められる能力 ・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・直接援助経験に基づく介護技術 ・自らの介護事例 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 ・実技講習を指導する技術
	社会福祉士	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護師・保健師・臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	・障害・疾病に関する知識 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 ・生活支援の視点に立脚したケアプラン作成技術を含むケアマネジメント方法論 ・カウンセリングに関する知識と技術 ・実技講習を指導する技術
レクリエーション体験学習 (3時間)	在宅レクリエーションの専門家	介護福祉士	看護師・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		・訪問看護についての具体的な知識 ・在宅レクリエーションの知識と技術 ・実技講習を指導する技術

# 講 師 選 定 基 準

## 3級課程

科 目	講 師 の 要 件						特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	
サービス提供の基本的 視点 (3時間)	介護福祉士	社会福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携する看護師・保健師、臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者	・障害・疾病に関する知識 ・生活者支援の視点に立脚した介護方法論 ・保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識 *在宅生活者への直接援助経験があることが望ましい ・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
老人福祉の制度とサービス (2時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者				
障害者(児)福祉の制度とサービス (2時間)	当該科目を担当する課の行政職員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者				・各法に関する知識及び制度とサービスについての知識
訪問介護概論 (3時間)	当該科目を担当する課の行政職員	介護福祉士	主任訪問介護員	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		・保健、福祉の制度とサービスについての知識 ・訪問介護の実務に関する具体的な知識
サービス利用者の理解 (3時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携する看護師・保健師、臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者		・訪問介護に関する知識 ・障害・疾病に関する知識 ・高齢者・障害者(児)及びその家族の生活実態と心理に関する知識

3級課程

2

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
介護概論 (3時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護士・保健師、臨床心理士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>生活者支援の視点に立った介護方法論</li> <li>直接援助経験に基づく介護技術</li> <li>自らの介護事例</li> <li>保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識</li> </ul>
家事援助の方法 (4時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	栄養士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>生活者支援の視点に立った介護方法論</li> <li>栄養、調理、被服等、家政に関する知識</li> </ul>
医学の基礎知識 (3時間)	内科医師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者					<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問介護に関する知識</li> <li>医学に関する知識</li> </ul>
心理面への援助 (2時間)	在宅レクリエーションの専門家	介護福祉士	介護士・保健師	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問介護についての具体的な知識</li> <li>在宅レクリエーションの知識と技術</li> </ul>
共感的理解と基本的態度の形成 (4時間)	臨床心理士	介護福祉士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他以外の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者				<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>訪問介護についての具体的な知識</li> <li>ロールプレイを含む臨床心理学に基づく共感性を高めるプラクティスの技術</li> <li>実技講習を指導する技術</li> </ul>

# 3級課程

3

科目	講師の要件							特に求められる能力
	1	2	3	4	5	6	7	
介護技術入門 (10時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護士・保健士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>生活者支援の視点に立脚した介護方法論</li> <li>直接援助経験に基づく介護技術</li> <li>自らの介護事例</li> <li>保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識</li> <li>実習講習を指導する技術</li> </ul>
訪問介護の共通理論 (3時間)	介護福祉士	主任訪問介護員	訪問介護を含む在宅サービスと連携をとって活動している看護士・保健士	大学院、大学、短期大学、介護福祉士養成校、福祉系高等学校等において該当科目あるいは読み替え可能な科目を担当する教員	その他の者で業績を審査することにより当該科目の担当に適任であると認められる者			<ul style="list-style-type: none"> <li>障害・疾病に関する知識</li> <li>生活者支援の視点に立脚した介護方法論</li> <li>直接援助経験に基づく介護技術</li> <li>自らの介護事例</li> <li>保健・医療・福祉の制度とサービスについての具体的な知識</li> <li>実習講習を指導する技術</li> </ul>



別表 4

## 科目免除の取扱い

(1) 基礎理解とその展開 (360)	介護等の実務経験					
	実務1年以上			実務1年未満		
	2級課程	1級課程	その他	2級課程	1級課程	その他
①生活支援の理念と介護における尊厳の理解(30)	○*1	○*1	○	○*1	○*1	○
②老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解(30)	免除	免除	○	免除	免除	○
③老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解(30)	免除	免除	○	免除	免除	○
④認知症の理解(30)	○	免除	○	○	免除	○
⑤介護におけるコミュニケーションと介護技術(90)	○*2 (30)	免除	○*2 (30)	○ (90)	免除	○ (90)
⑥生活支援と家事援助技術(30)	免除	免除	○	免除	免除	○
⑦医療及び看護を提供する者との連携(30)	○	○	○	○	○	○
⑧介護における社会福祉援助技術(30)	○*1	○*1	○	○*1	○*1	○
⑨生活支援のためのアセスメントと計画(30)	○	免除	○	○	免除	○
⑩介護職員の倫理と職務(30)	免除	免除	○	免除	免除	○
(2) 実習(140)	免除	免除	免除	○	○	○
合計受講時間数(500)	150	60	300	350	200	500

\*1 ①「生活支援の理念と介護における尊厳の理解」と⑧「介護における社会福祉支援技術」は、あわせて30時間(各15時間程度を目安とする)行うこととする。30時間で両科目の「修了時の評価ポイント」の内容をすべて履修すること。

\*2 ⑤「介護におけるコミュニケーションと介護技術」は、30時間行うこととする。30時間で「修了時の評価ポイント」の内容をすべて履修すること。

実務経験1年以上の者が、介護福祉士試験を受験するために「介護技術講習会」を終了した場合は、⑤「介護におけるコミュニケーションと介護技術」の受講を免除する。

\*3 「○」は受講科目を示す。

別表 5

1 2級課程

① 向上コース修了者であって、介護サービス技能審査に合格したもの

区分	免除する科目及び時間数	内 容
	介護技術に関する講義（11時間）のうち内容欄に掲げるもの	介護概論（3時間）

② 短期課程（700時間）の修了（見込み）者であって、介護サービス技能審査に合格したもの

区分	免除する科目及び時間数
講義	相談援助に関する講義（4時間）を除く全ての科目（54時間）
演習	全ての科目（42時間）
実習	全ての科目（30時間）

③ 介護サービス技能審査合格者であって、在宅介護サービス実務経験1年以上であるもの

区分	免除する科目及び時間数	内 容
講義	社会福祉の基本的な理念及び福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義（6時間）のうち内容欄に掲げるもの	サービス提供の基本視点（3時間）
	老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義（6時間）	
	訪問介護に関する講義（5時間）のうち内容欄に掲げるもの	訪問介護概論（3時間）
	介護技術に関する講義（11時間）のうち内容欄に掲げるもの	介護概論（3時間）
	家事援助の方法に関する講義（4時間）	
	医学等の関連する領域の基本的な知識に関する講義（8時間）のうち内容欄に掲げるもの	医学の基礎知識Ⅰ（3時間）
演習	福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習（4時間）	
	介護技術に関する演習（30時間）	
	レクリエーションに関する演習（3時間）	
実習	介護実習（24時間）	
	老人デイサービスセンター等のサービス提供現場の見学（6時間）	

## 2 3級課程

### ① 向上コース修了者であって、介護サービス技能審査に合格したもの

区分	免除する科目及び時間数
講義	基礎的な介護技術に関する講義（3時間）

### ② 短期課程（700時間）の修了（見込み）者であって、介護サービス技能審査に合格したもの

区分	免除する科目及び時間数
講義	福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義（3時間）
	老人保健福祉及び障害者福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義（4時間）
	訪問介護に関する講義（3時間）
	老人及び障害者の疾病、障害等に関する講義（3時間）
	基礎的な介護技術に関する講義（3時間）
	家事援助の方法に関する講義（4時間）
	医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義（5時間）

### ③ 介護サービス技能審査合格者であって、在宅介護サービス実務経験1年以上であるもの

区分	免除する科目及び時間数
講義	全ての科目（25時間）
演習	全ての科目（17時間）
実習	全ての科目（8時間）

(注) 1 「向上コース修了者」とは、介護サービス業務について6ヶ月以上の実務経験を有し、(財)介護労働安定センターが実施している介護労働者職業講習のうち(社)全国民営職業紹介事業協会に委託して実施している向上コースを修了した者であること。

2 「短期課程（700時間）の修了（見込み）者」とは、職業能力開発促進法施行規則に定められた短期課程の普通職業訓練において介護に関する訓練の修了者又は修了見込みの者であること。

3 実務経験と介護サービス技能審査合格の前後関係は問わないこと。

別表 6  
2 級課程

区分	免除する科目及び時間数	内 容
講義	社会福祉の基本的な理念及び福祉サービスを提供する際の基本的な考え方に関する講義（6 時間）のうち内容欄に掲げるもの	サービス提供の基本的視点（3 時間）
	訪問介護に関する講義（5 時間）のうち内容欄に掲げるもの	訪問介護概論（3 時間）
	介護技術に関する講義（11 時間）のうち内容欄に掲げるもの	介護概論（3 時間）
	家事援助の方法に関する講義（4 時間）	
演習	福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習（4 時間）	
	レクリエーションに関する演習（3 時間）	
実習	老人デイサービスセンター等のサービス提供現場の見学（6 時間）	

別表 7

1 2 級課程

区分	免除する科目及び時間数	内 容
演習	介護技術に関する演習（30 時間）	
実習	介護実習（24 時間）のうち内容欄に掲げるもの	特別養護老人ホーム等における介護実習（16 時間）

2 3 級課程

区分	免除する科目及び時間数
演習	基礎的な介護技術に関する演習（10 時間）

## 通信学習の場合の通信時間数（標準）

総時間上限… 1 6 5 時間

各科目あたりの上限…下表による

科 目	通信時間	総時間
① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	1 5 時間	3 0 時間
② 老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解	1 5 時間	3 0 時間
③ 老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解	1 5 時間	3 0 時間
④ 認知症の理解	1 5 時間	3 0 時間
⑤ 介護におけるコミュニケーションと介護技術	3 0 時間	9 0 時間
⑥ 生活支援と家事援助技術	1 5 時間	3 0 時間
⑦ 医療及び看護を提供する者との連携	1 5 時間	3 0 時間
⑧ 介護における社会福祉援助技術	1 5 時間	3 0 時間
⑨ 生活支援のためのアセスメントと計画	1 5 時間	3 0 時間
⑩ 介護職員の倫理と職務	1 5 時間	3 0 時間

## 通信学習の場合の通信時間数（免除コース）

### 1 訪問介護員養成研修 1 級課程修了者

総時間上限… 30 時間      各科目あたりの上限… 下表による

科 目	通信時間	総時間
① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
⑧ 介護における社会福祉援助技術		
⑦ 医療及び看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間

### 2 実務経験 1 年以上の訪問介護員養成研修 2 級課程修了者

総時間上限… 70 時間      各科目あたりの上限… 下表による

科 目	通信時間	総時間
① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
⑧ 介護における社会福祉援助技術		
④ 認知症の理解	15 時間	30 時間
⑤ 介護におけるコミュニケーションと介護技術	10 時間	30 時間
⑦ 医療及び看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間
⑨ 生活支援のためのアセスメントと計画	15 時間	30 時間

### 3 実務経験 1 年未満の訪問介護員養成研修 2 級課程修了者

総時間上限… 90 時間      各科目あたりの上限… 下表による

科 目	通信時間	総時間
① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
⑧ 介護における社会福祉援助技術		
④ 認知症の理解	15 時間	30 時間
⑤ 介護におけるコミュニケーションと介護技術	30 時間	90 時間
⑦ 医療及び看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間
⑨ 生活支援のためのアセスメントと計画	15 時間	30 時間

### 4 その他の者（実務経験 1 年以上）

総時間上限… 145 時間      各科目あたりの上限… 下表による

科 目	通信時間	総時間
① 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	15 時間	30 時間
② 老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解	15 時間	30 時間
③ 老人、障害者等の疾病、障害等に関する理解	15 時間	30 時間
④ 認知症の理解	15 時間	30 時間
⑤ 介護におけるコミュニケーションと介護技術	10 時間	30 時間
⑥ 生活支援と家事援助技術	15 時間	30 時間
⑦ 医療及び看護を提供する者との連携	15 時間	30 時間
⑧ 介護における社会福祉援助技術	15 時間	30 時間
⑨ 生活支援のためのアセスメントと計画	15 時間	30 時間
⑩ 介護職員の倫理と職務	15 時間	30 時間

別表 9

受け入れ人数の基準

1 介護実習：1施設1日当たり5人まで

課 程	教 科 名
介護職員 基礎研修課程	施設・居住型実習
	通所・小規模多機能型実習
	地域の社会資源実習
1 級課程	認知症高齢者等処遇困難事例対応実習 デイサービスセンター実習
2 級課程	介護実習

2 同行訪問：訪問先1世帯当たり2人

課 程	教 科 名
介護職員 基礎研修課程	訪問介護実習
1 級課程	チーム運営方式業務実習
	訪問看護同行訪問
	在宅介護支援センター職員との同行訪問
2 級課程	訪問介護同行訪問
3 級課程	訪問介護同行訪問見学

3 その他、現場見学等：受け入れ先の許可を得た人数

## 訪問介護員養成研修修了証明申請書

年 月 日

山口県知事

様

郵便番号  
申請者 住 所

ふりがな

氏 名 印  
(生年月日 年 月 日)  
(電話 )

私が、下記により訪問介護員養成研修を修了した者とみなされるものであることを証明願います。

## 記

修了したとみなす課程		級課程	
訪問介護員 養成研修修 了者とみな すことが できる理由	保有資格	看護師・准看護師・介護アテンドサービス士	
	上記資格 に関する 業務の 従事経験		
	過去に受 けた研修 等		
訪問介護員として勤務 する（予定）の事業所	所在地	郵便番号  (電話 )	
	名 称		
(山口県収入証紙 (6 5 0 円分) 貼付欄) ※ 消印はしないこと。			

- 注 1 「修了したとみなす課程」欄は、看護師・准看護師は「1級課程」と、介護アテンドサービス士は「3級課程」と記入すること。
- 2 「保有資格」欄は、該当するものを○で囲むこと。
- 3 「上記資格に関する業務の従事経験」欄は、従事した施設名、職種、期間等を具体的に記入すること。
- 4 「過去に受けた研修等」欄は、公的団体等が実施する介護業務等に関する研修の受講経験について記入すること。
- 5 「訪問介護員として勤務する（予定）の事業所」欄は、具体的な事業所名を記入すること。

添付資料 1 保有資格の免許状等の写し

2 実務経験申告書

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4とする。



## 実 務 経 験 申 告 書

年 月 日

山口県知事

様

申請者氏名

(電話

印  
)

私の看護師・准看護師・在宅福祉サービス等の実務経験について、以下のとおり申告します。

施設又は事業所の名称及び所在地	(所在地)		
	1 -----		
	(名 称)		
	2 -----		
業 務 期 間	(所在地)		
	2 -----		
業 務 期 間	1 年 月 日 ~ 年 月 日 ( 年 月 )		
	2 年 月 日 ~ 年 月 日 ( 年 月 )		
業 務 内 容	業 務 の 内 容	勤務形態	期 間
			年 月 日
			~
			年 月 日
			年 月 日
			~
		年 月 日	
		~	
		年 月 日	

注 1 申告書の作成日現在の状況を記入すること。

2 「勤務形態」欄には、常勤、非常勤又は登録の別及び1月平均勤務日数のおよその日数を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4とする。

## 様式 2

## 介護員養成研修科目の免除状況調

年 月 日

山口県知事

様

介護員養成研修事業者名

郵便番号

住 所

氏 名

(電話

印

)

年 月 日に修了した介護職員基礎研修級課程の修了者における科目の受講免除の状況は、次のとおりです。

受講者名	(生年月日 年 月 日)		
免除科目	区 分	科 目 名	時 間 数
免除要件	資格保有	資 格 名	
	従事した 介護業務	従事した施設名	
		従事した職種	
		従事した期間 及び従事日数	年 月～ 年 月 ( 年 月) ----- 1月のうち 日 ( 時間)

- 注 1 届出者の氏名を自署したときは、押印することを要しないこと。  
 2 免除科目の「区分」欄は、講義、演習又は実習の別を記入すること。  
 3 「免除要件」欄は、該当する項目を○で囲み、その内容を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4とする。

参考書式

○ ○ ○ ○ 実 施 要 領

1 研修目的

2 実施主体

3 実施場所

実施地域	実 施 場 所 ( 所 在 地 )		
	講 義	実 技 講 習	実 習
山口市	1 介護実習普及センター 山口市・・・	1	「実習施設等一覧」に示すとおり
下関市	1	1	
~~~~~			
~~~~~			
合 計	か所	か所	か所

4 受講資格

5 募集方法

6 受講料

7 定員及び実施期間

全○回実施 全受講定員数△名

実施地域 (実施時期)	第 1 回	第 2 回	第 3 回	合 計
山口市	40人 (○月○日~○月○日)			
下関市	(△月△日~△月△日)			
~~~~~				
~~~~~				
合 計 (実施回数) (定員数)				○回実施 △人

8 研修カリキュラム

全○○時間 (詳細別紙)

9 講師氏名

(別紙定めるとおり)

10 使用テキスト

11 研修修了の認定方法

(1) 参加者の出席・受講確認 (とくに実習) レポート提出

講 義	実 技	実 習
全講義出席をもって修了とする。ただし、○科目までの欠席に対する補講は・・・		

(2) 修了者に対する修了証明書等

12 免除科目

3級課程修了者の場合は、・・・

## 研修カリキュラム

( 地区)

実施年月日	教科名	時間割	担当講師	実施場所	備考
○年○月○日	福祉理念とケアサービス	〇〇:〇〇 ～〇〇:〇〇 (3時間)			
~~~~~					
~~~~~					

## 研修カリキュラム

※通信教育の場合

( 地区)

スクーリング (面接授業) 実施年月日	教科名	時間割	担当講師	実施場所	当該科目に 対応する通 信課題の項 目等
○年○月○日	福祉理念とケアサービス	〇〇:〇〇 ～〇〇:〇〇 (3時間)			
~~~~~					
~~~~~					

## 実習カリキュラム

※ 1 級課程の場合

科目	実習方法
○介護実習等	
認知症高齢者等処遇困難事例対応実習	開始時期は・・・ 実習施設受け入れ状況については1施設1日当たり・・・
デイサービスセンター実習	
○同行訪問等	
チーム運営方式業務実習	開始時期は・・・ 訪問先1世帯当たりの受講生人数は・・・
訪問看護同行訪問	
在宅介護支援センター職員との動向訪問	
○現場見学等	
公的関係機関見学	開始時期は・・・ 実習施設受け入れ状況については1施設1日当たり・・・
○事例報告の検討	開始時期は・・・ 小グループは受講者〇〇人を単位とし・・・

※ 2 級課程の場合

科目	実習方法
介護実習	開始時期は… 実習施設受け入れ状況については1施設1日当たり…
訪問介護同行訪問	開始時期は… 訪問先1世帯当たりの受講生人数は…
在宅サービス提供現場見学	開始時期は… 実習施設受け入れ状況については1施設1日当たり…

※ 3 級課程の場合

科目	実習方法
訪問介護同行訪問見学	開始時期は… 訪問先1世帯当たりの受講生人数は…
デイサービスセンター現場見学	開始時期は… 実習施設受け入れ状況については1施設1日当たり… ※

実習先、利用計画一覧表

実習科目	実習先	所在地	設置者（法 にあ人ては 名称）	利用計画
（例） ホームヘルプサ ービス同行訪問	特別養護老人 ホーム〇〇園	〇〇市 〇〇〇	社会福祉法人 〇〇〇〇会	班分け、 グループ 担当ヘルパー等
	〇市 社会福祉協議 会			



## 演習用具一覽

用 具 名	数 量	備 考
特殊寝台ベッド	台	レンタル（業者名： ）
車いす	台	

## 講 師 一 覽 表

[illegible]

# 承 諾 書

年 月 日

養成研修事業者

様

設置者（法人名）  
（代 表）

この度、〇〇講習会（ホームヘルパー養成研修 級課程）の受講生が下記の施設等で実習することを承諾します。

なお、実習に係る具体的事項については、別途協議します。

記

1 施設名等

2 所在地

3 教科目

4 時期

年 月 日 ～ 年 月 日

5 受入計画

受入年月日	平成〇年			
	〇月〇日			計
受入人数	△人			〇人

## 講義会場の見取り図

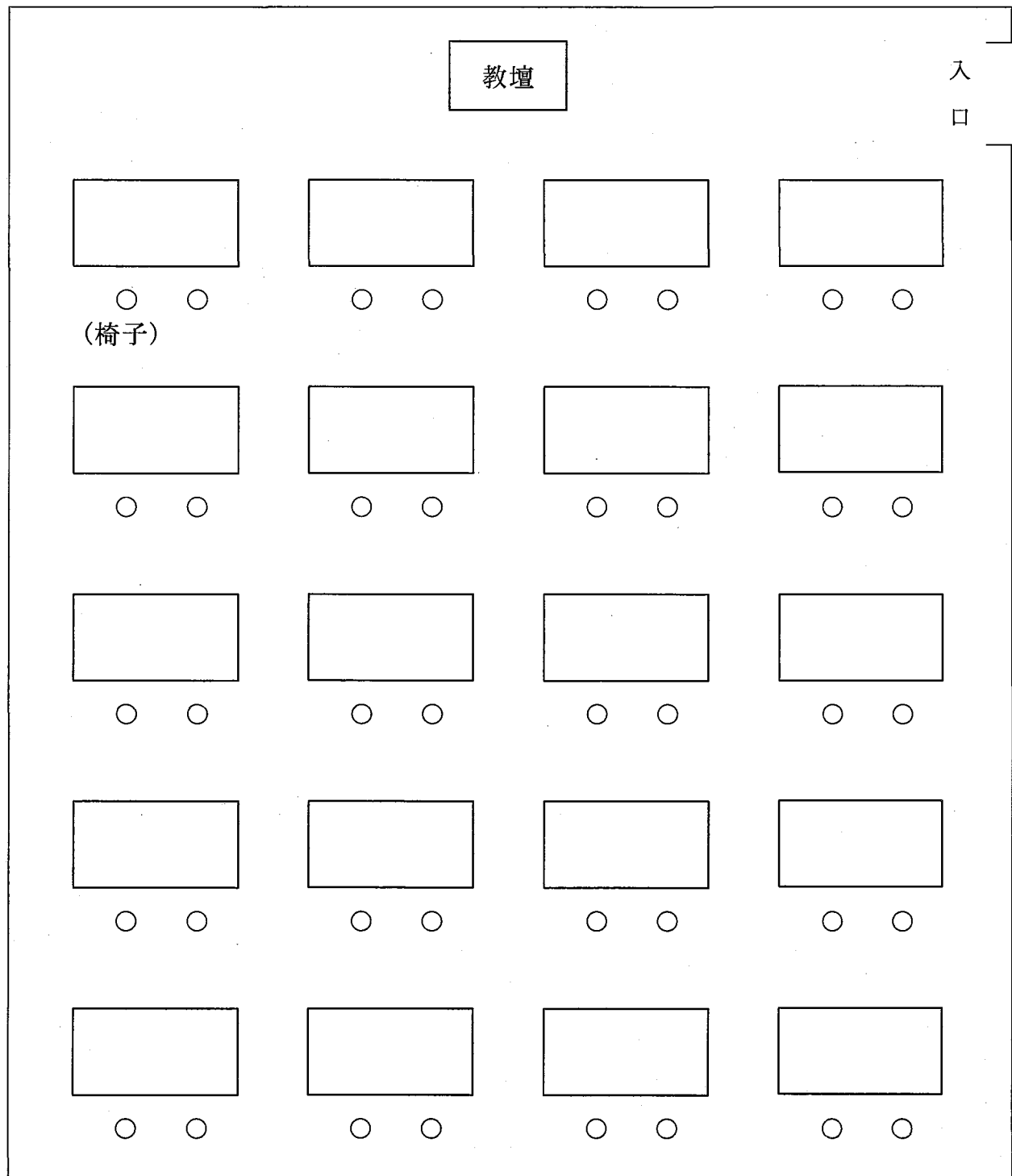
(例)

名称：〇〇センター会議室

所在地

面積：100㎡

入室可能人数：60人(本研修の定員40人)



## 演習会場の見取り図

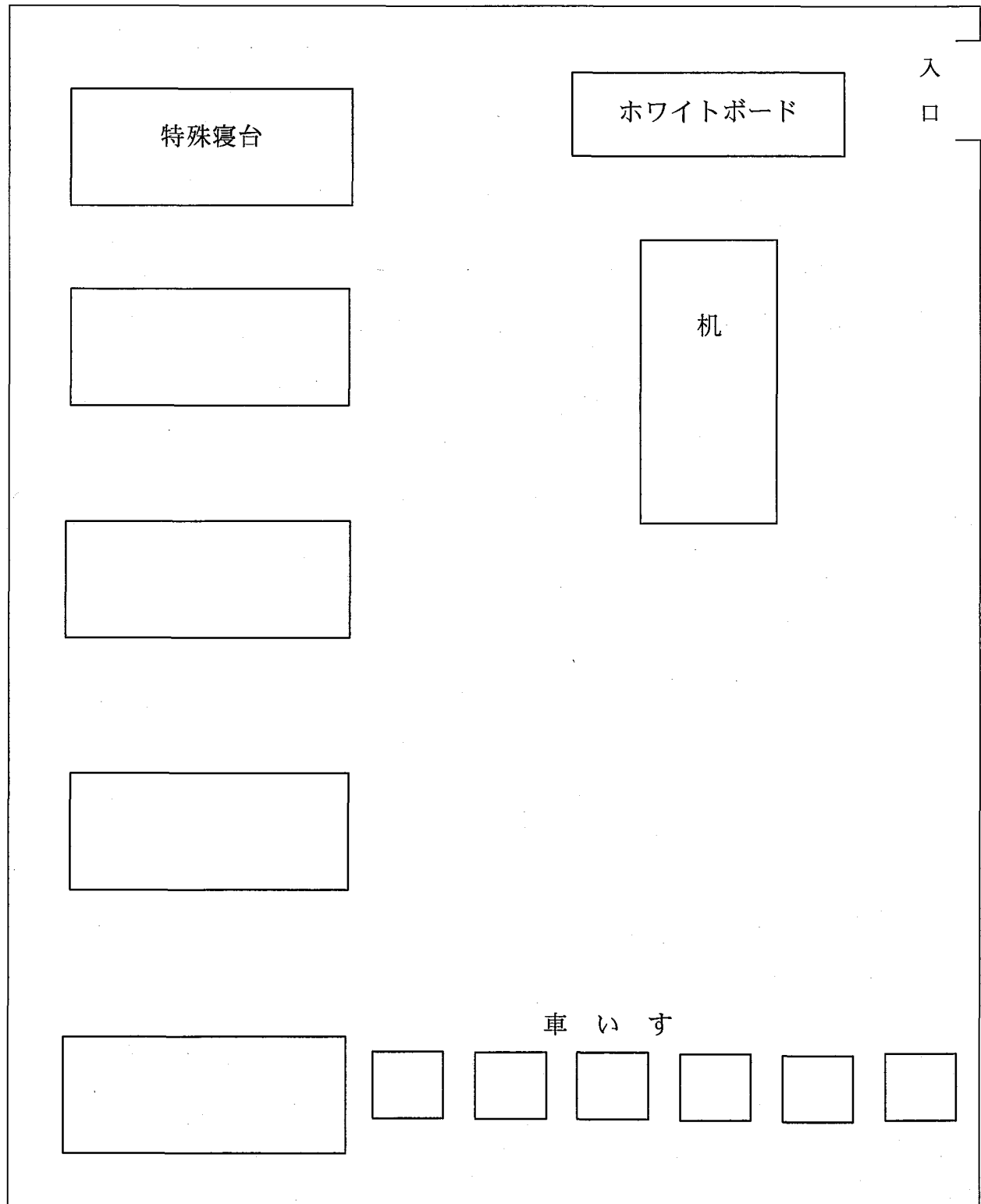
(例)

名称：〇〇センター会議室

所在地

面積：100㎡

入室可能人数：60人(本研修の定員40人)



## 変 更 届 別 添 資 料

(例)

### 4 学則または事業計画書

変 更 前	変 更 後	変更理由
実施回数2回	実施回数3回 (追加分の研修カリキュラム 講師一覧、承諾書等は別途添付)	受講希望増に対応 するため
定員20名	定員30名	受講希望増に対応 するため

### 5 講師の氏名、履歴及び担当科目並びに専任または兼任の別

変 更 前	変 更 後	変更理由
山口太郎 ××大学福祉学部福祉科卒業 特別養護老人ホーム山口 介護職員(昭和 年 月～) 介護福祉士 担当科目: 内部講師:兼任	△△○○ ○○大学福祉学部福祉科卒業 特別養護老人ホーム×× 介護職員(平成 年 月～) 介護福祉士 担当科目: 外部講師	講師の都合による
山口花子 ○○大学医学部卒業 ○○病院病院長( 年 月 ～) 内科医師 担当科目:障害.. 外部講師	山口太郎 ○○大学医学部卒業 ○○病院内科部長( 年 月～) 内科医師 担当科目:障害.. 外部講師	

### 6 実習施設として利用しようとする施設の名称、所在地及び設置者の氏名

変 更 前	変 更 後	変更理由
	(追加) 特別養護老人ホーム山口 所在地 設置者氏名	受講生の増による

# 施設実習証明書

年 月 日

(訪問介護員養成研修事業者) 様

施設設置者 (法人名)  
(代 表)

印

例) ××法人  
法人代表 ○○ △△ 印  
例) ○○訪問介護事業所  
管理者 ×× ×× 印

この度、○○講習会（訪問介護員養成研修 級管理者）の受講生が下記の施設等で実習したことを証明します。

記

実習科目：介護実習

受講生	実習日	実習日
山口 太郎	月 日	

実習科目：在宅福祉サービス提供現場見学

受講生	実習日	実習日
山口 太郎	月 日	

実習科目：訪問介護同行訪問

受講生	実習日	実習日
山口 太郎	月 日	

※養成研修事業者の同一法人内で実施の場合は、担当責任者の確認によること。

# 実務経験証明書

年 月 日

研修事業者様

施設・団体名  
(指定事業所番号) ( )

代表者氏名 印

施設種別

住 所 〒

電話番号

次の者は、介護等の業務の従事経験を有することを証明します。

(氏<sup>ふりがな</sup> 名)

(施設・団体名)

(従事職種)

(就業期間) 年 月 日 ~ 年 月 日

(従事日数) 日間

\*従事職種については、従事している業務内容を含めできるだけ具体的に記載してください。